

平成25年度 なら健康長寿基礎調査
報 告 書

平成26年3月
奈 良 県

－ 目 次 －

I	調査の実施概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の実施要領	1
3	調査票の配付・回収の状況	1
4	集計方法、数値の取り扱いについて	1
II	調査結果の要約	2
1	心身の状態	2
2	生活習慣について	2
3	医療や健診（検診）の受診状況	3
4	歯と口腔の健康	3
5	地域との関わりについて（社会資本・ソーシャルキャピタル）	3
III	調査の結果	4
1	回答者の基本属性	4
2	心身の状態	6
3	生活習慣について	10
4	医療や健診（検診）の受診状況	23
5	歯と口腔の健康	31
6	地域との関わりについて（社会資本・ソーシャルキャピタル）	35
IV	調査票	41

I 調査の実施概要

1 調査の目的

本調査は、県民の健康づくりに関する意識や実態を把握し、県の健康づくり施策に反映させるための基礎資料とすることを目的とする。平成22年度・23年度・24年度に続き4回目の実施である。

2 調査の実施要領

- 調査地域：県内全市町村
- 調査対象：平成25年7月1日現在で県内在住の20歳以上の方から無作為抽出した11,400人
標本抽出は、県内39市町村ごとの人口及び年齢構成に応じて設定
- 調査方法：郵送配付・郵送回収。無記名方式。調査期間中に礼状兼催促状を1回送付
- 調査期間：平成25年9月13日～平成25年10月2日
- 調査項目：
 - ・回答者の属性
 - ・健康的な生活習慣の実施状況
 - ・医療と健診の受診状況
 - ・地域との関わりや地域活動の実践状況

3 調査票の配付・回収の状況

配付件数	回収数・率	有効回答数・率	(参考) 過去3回の有効回答率
11,400件	6,228件・54.6%	6,213件・54.5%	平成22年度：45.1% 平成23年度：48.4% 平成24年度：56.7%

※「回収率」及び「有効回答率」は「配付件数」に対する割合。「有効回答数」は「回収数」から白票など無効票を除外した数

4 集計方法、数値の取り扱いについて

- 集計は百分率（%）によるもので、集計結果は小数第2位を四捨五入して小数第1位までを表記している。
- 単数回答の選択肢の構成比の合計は、端数処理の関係で100.0%にならない場合がある。
- 複数回答の選択肢の構成比の合計は100.0%を超える場合がある。
- 過去の調査結果（平成12年度「健康・生活習慣調査」、平成16年度「県民健康生活調査」、平成22年度～24年度「なら健康長寿基礎調査」）及び「なら健康長寿基本計画（平成25年7月策定）」の重点健康指標や健康指標との比較は、文中及び図表中にその旨を表記している。
- 図表中の「全体」の値には、性別や年齢の無回答も含む。

Ⅱ 調査結果の要約

1 心身の状態

■肥満とやせの状況 (P. 6)

- 肥満 (BMI 25以上) は男性の40歳代と50歳代が3割台と多く、男性では増加傾向にある。
- やせ (BMI 18.5未満) は女性の20歳代と30歳代が2割台と多い。

■ストレスの状況とその対処法 (P. 7~P. 9)

- ストレスを感じたことが「よくある」人は、男女とも20~40歳代が4~5割台と多く、特に女性の30歳代が最も多く、男女とも昨年度に比べて増加している。
- ストレスの内容は、若年層・中年層の男性は「職場の人間関係」や「仕事の問題」、女性は「家族の問題」が多く、高齢層では男女とも「健康の問題」や「家族の問題」が多い傾向にある。
- ストレスが「よくある」人ほど睡眠時間が短い傾向にある。
- 職場で専門家によるストレス等の相談を「受けられる」人は、40~64歳では男性が女性に比べて10ポイント以上高い。

2 生活習慣について

■食生活習慣 (P. 10~P. 11)

- 健康な食生活習慣のために半年以上継続して取り組んでいることが「ある」人は、女性が男性に比べて多く、また年齢が高いほど多い傾向にある。
- 「ほとんど『日本型食生活』である」人は年齢が高いほど多い傾向で、若年層で食生活習慣に配慮していない人が多く、男女とも昨年度に比べて減少している。
- 時間をかけてよく噛んで「食べていない」人は、肥満の人に多い傾向にある。

■外出、運動習慣 (P. 12~P. 14)

- 外出せず、もっぱら家及びその周辺で過ごす日数は、年齢が高いほど多い傾向にあり、男性の70歳以上と女性の60歳以上では「3~4日」(週の半分程度)以上の人が4割を超えている。
- 1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上の実践者、1日30分以上の歩行実践者は、いずれも30歳代と40歳代で少なく、高齢層で多い傾向にある。

■飲酒・喫煙の状況 (P. 15~P. 22)

- ほぼ毎日飲酒者は男性の50~74歳で4割台と多く、男性は過去3回の調査を通じて減少傾向にある。
- 現在喫煙者は、男性は40歳代、女性は30歳代で最も多く、男女とも過去3回の調査を通じて大きな変化はない。
- たばこを「やめたい」人は、男性の20歳代で最も少ない。
- たばこをやめる方法の理解度は、男性の64歳以下では7割以上であるのに対し、65歳以上では5~6割台にとどまる。
- たばこをやめる治療をする医療機関の理解度は、男女とも8割を超えているが、男性の65歳以上では年齢が高いほど認知率が低い傾向にある。
- 受動喫煙は、全体では「飲食店」「遊技場」「職場」「家庭」「行政機関」「医療機関」「学校」の順に多い。
- 喫煙による健康への影響の理解度について、「心臓病」「脳卒中」「歯周病」は、平成12年度調査・16年度調査・今回調査と毎回上昇している。他方、「早産」「低体重児出産」「受動喫煙による周囲の人の肺がん」は、平成12年度調査から16年度調査にかけては上昇したが、今回は16年度調査に比べて低下している。

3 医療や健診（検診）の受診状況

■内科的な健康診断の受診状況（P. 23～P. 25）

- 内科的な健康診断の受診率は7割台であり、男女とも昨年度に比べて上昇した。
- 年齢と職業からみた内科的な健康診断の受診率は、職場等で健診等の受診機会がある会社員や公務員で高く、特定健康診査等を自発的に受診する必要がある自営業や農林水産業、無職で低い。

■がん検診の受診状況（P. 26～P. 30）

- がん検診の受診率は4割台であり、男女とも昨年度に比べて上昇した。
- がん検診の受診率は、男性は「胃がん」、女性が「大腸がん」が最も高い。「胃がん」「肺がん」「大腸がん」の受診率はいずれも男性が女性に比べて高い。
- 受診したがん検診の実施主体は、「会社員」や「公務員」では「職場や健康保険組合の検診」が最も多く、男性の中年層・高齢層が多い「自営業」や「農林水産業」、高齢層や家事専業を含めた女性が多い「無職」では「病気治療の一環」に加えて「自発的に全額個人負担で受診」が比較的多い。
- がん検診を受診しなかった主な理由は、若年層や中年層では「時間的な余裕がないから」や「費用がかかるから」が多く、高齢層では「病気で医師にかかっているから」や「健康なので必要ないと思うから」が多い。
- がん検診の受診勧奨の有無からみたがん検診の受診率は、受診勧奨があった人がなかった人に比べて高い。

4 歯と口腔の健康

■歯と口腔の状態（P. 31～P. 32）

- 「6024達成者」は県全体が70.3%で、昨年度（72.1%）に比べて減少。
- 「8020達成者」は県全体が38.2%で、昨年度（35.7%）に比べて増加。

■歯と口腔の健康づくり（P. 33～P. 34）

- 定期的な歯科検診の受診率は若年層ほど低い傾向。受診率は男女とも昨年度に比べて上昇。

5 地域との関わりについて（社会資本・ソーシャルキャピタル）

■社会参加の状況（P. 35～P. 39）

- 地域や組織での活動の参加率は、県全体では45.7%で、昨年度（32.8%）に比べて上昇。
- 会や組織での活動に健康づくりを目的としたものが含まれる割合は、県全体では17.0%で、昨年度（15.9%）に比べて上昇。

■つきあい・交流、信頼の状況（P. 40）

- 近所で信頼して相談できる人が「いる」人は、いずれの年齢でも女性が男性に比べて多い。
- 地域でお裾分けなどを気軽にしあう関係がある地域は南和保健医療圏が最も多く、以下、東和保健医療圏、中和保健医療圏、西和保健医療圏、奈良保健医療圏と続いている。

Ⅲ 調査の結果

1 回答者の基本属性

(1) 回答者の性・年齢

- 有効回答6,213件のうち、男性が2,834人（45.6%）、女性が3,332人（53.6%）となっている。
- 県の年齢別人口構成比に比べると、20～40歳代の回答率は実際の人口構成比よりも低く、50～70歳代の回答率は実際の人口構成比より高く、回答者はやや高齢者に偏っている。【図表1-1】

【図表1-1】 回答者の性・年齢

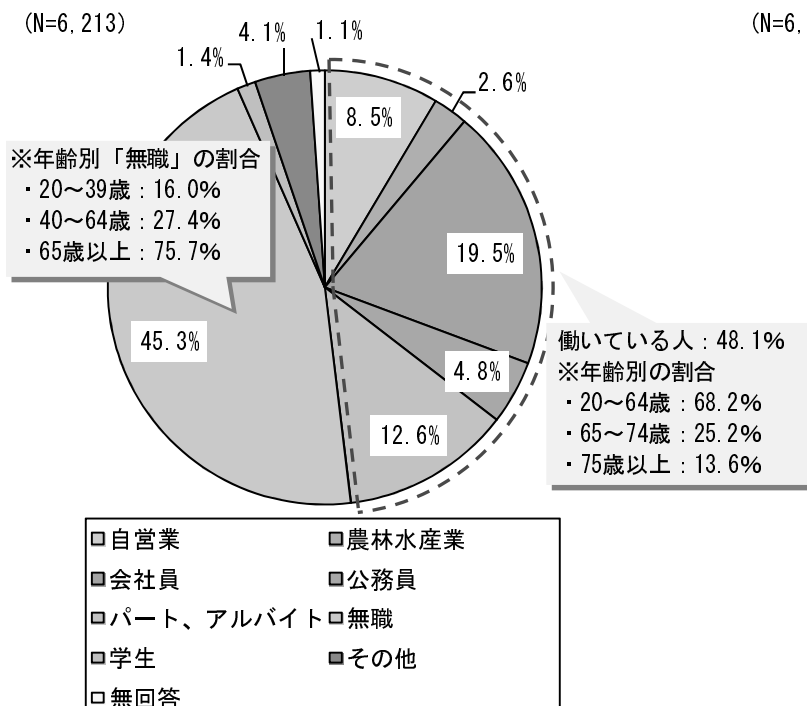
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	無回答	合計	
											人数	構成比
男性(人)	198	247	341	415	351	335	334	328	277	8	2,834	45.6%
女性(人)	245	386	477	542	404	334	364	313	257	10	3,332	53.6%
無回答(人)	0	1	1	7	3	5	6	4	8	12	47	0.8%
合計(人)	443	634	819	964	758	674	704	645	542	30	6,213	100.0%
回答者構成比	7.1%	10.2%	13.2%	15.5%	12.2%	10.8%	11.3%	10.4%	8.7%	0.5%	100.0%	
(参考) 県人口構成比	12.4%	14.6%	16.9%	14.7%	9.7%	9.0%	7.9%	6.1%	8.7%	—	100.0%	

※「(参考) 県人口構成比」は20歳以上県人口の年齢構成比。県人口は「年齢階級市町村別人口」(平成25年10月1日現在)による。県人口：1,404,296人／20歳以上：1,153,664人・20歳以上男性：540,895人（46.9%）・20歳以上女性：612,769人（53.1%）

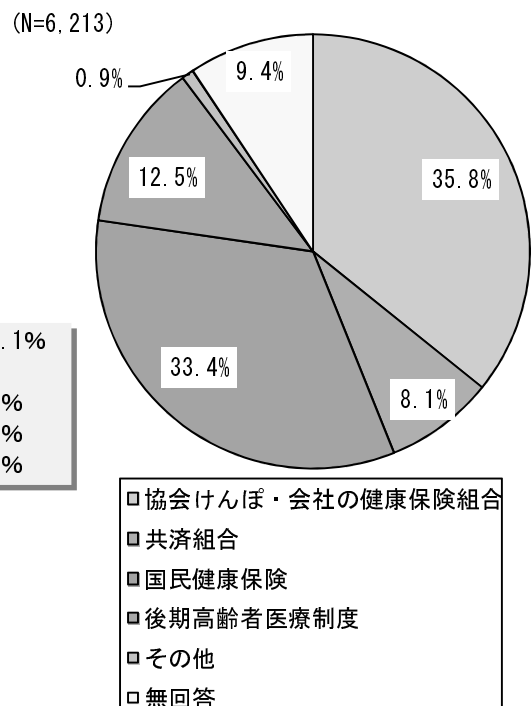
(2) 回答者の職業、加入医療保険

- 回答者の職業は、「自営業」「農林水産業」「会社員」「公務員」「パート、アルバイト」を合計した「働いている人」は48.1%となっている。20～64歳では約7割の人が働いており、65～74歳でも4分の1が働いている。他方、65歳以上の高齢層では7割以上の人が無職となっている。【図表1-2】
- 回答者の加入医療保険は、「協会けんぽ・会社の健康保険組合」と「国民健康保険」がそれぞれ3割台で多く、以下、「後期高齢者医療制度」(12.5%)と続いている。【図表1-3】

【図表1-2】 回答者の職業



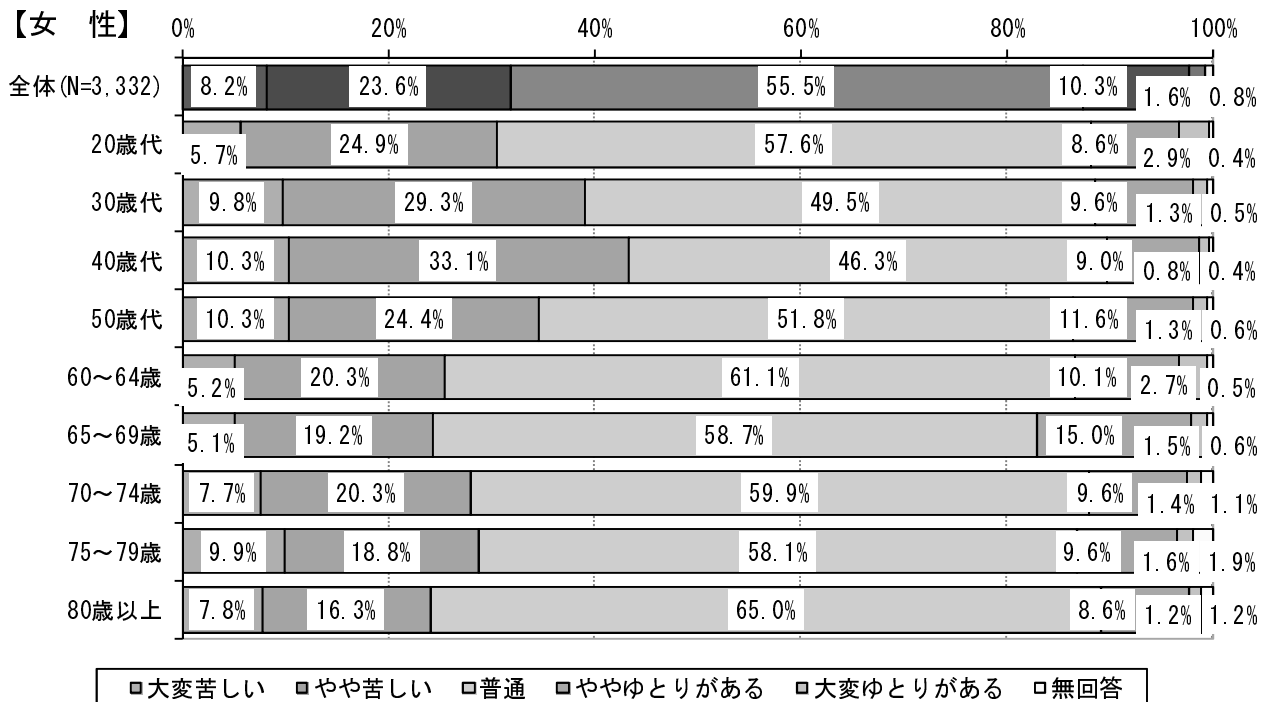
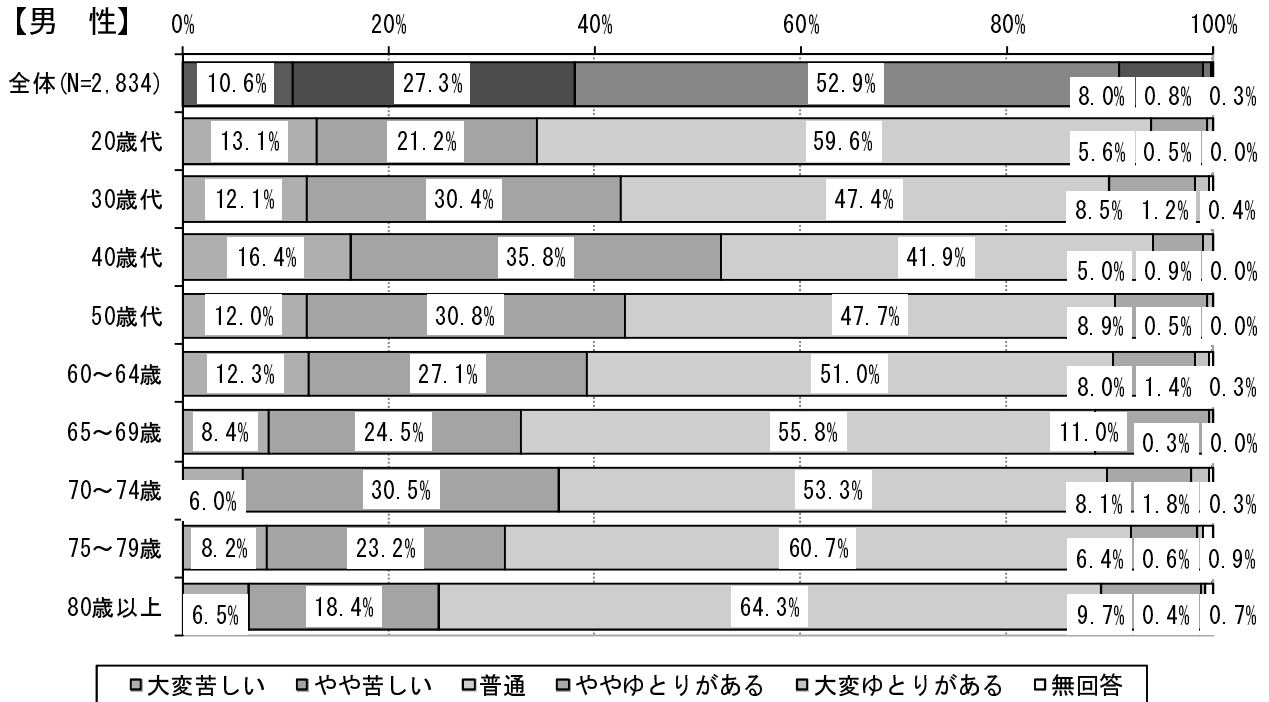
【図表1-3】 回答者の加入医療保険



(3) 回答者の現在の暮らしの状況

- 回答者の現在の暮らしの状況は、男性では、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した「苦しい」は40歳代が52.2%で最も多く、若年層・高齢層ほど少ない傾向にある。【図表1-4】
- 女性でも、「苦しい」は40歳代が43.4%で最も多く、男性と同様に若年層・高齢層ほど「苦しい」が少ない傾向にある。【図表1-4】

【図表1-4】 回答者の現在の暮らしの状況



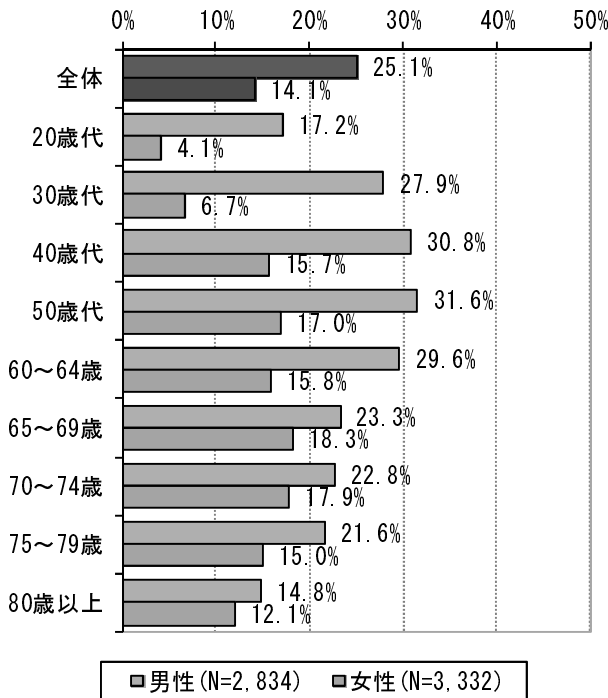
2 心身の状態

(1) 「肥満」と「やせ」の状況

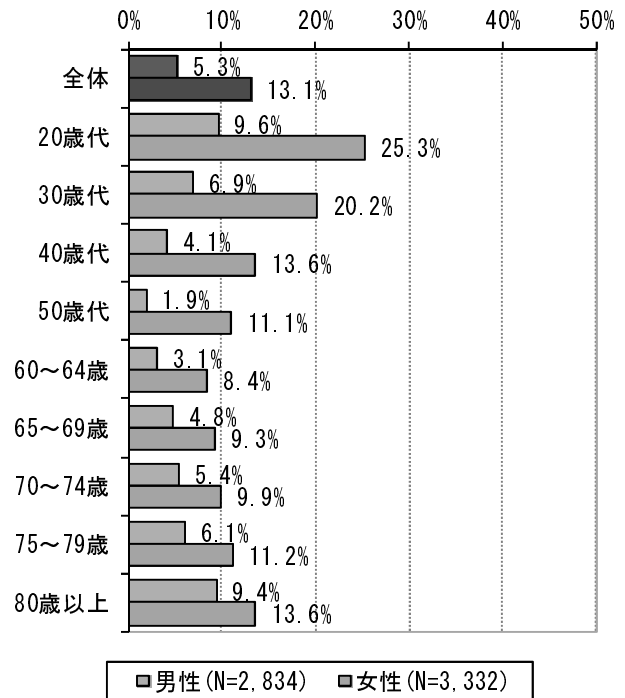
- 肥満の人は、男性が25.1%、女性が14.1%で男性が多く、男性の40～50歳代が3割台と多い。過去3回の調査との比較では、男性は増加傾向にある。【図表2-1】
- やせの人は、男性が5.3%、女性が13.1%で女性が多く、女性の20～30歳代が2割台と突出している。過去3回の調査との比較では、男女とも横ばい傾向にある。【図表2-2】

※肥満度 (BMI) は、「体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)」で算出した値で、18.5未満が「やせ」、18.5以上25未満が「普通」、25以上が「肥満」とされている。

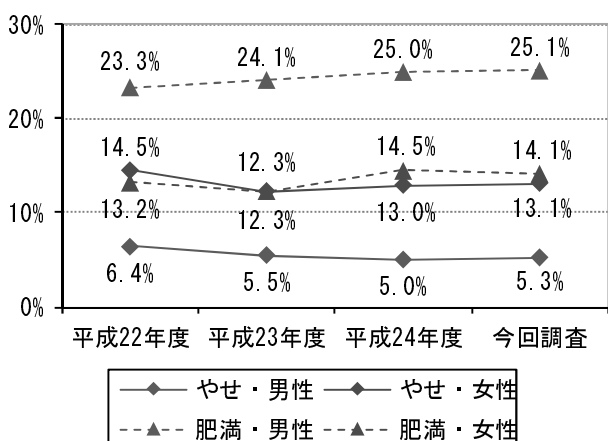
【図表2-1】肥満 (BMI 25以上) の人の割合



【図表2-2】やせ (BMI 18.5未満) の人の割合



《過去の調査との比較》



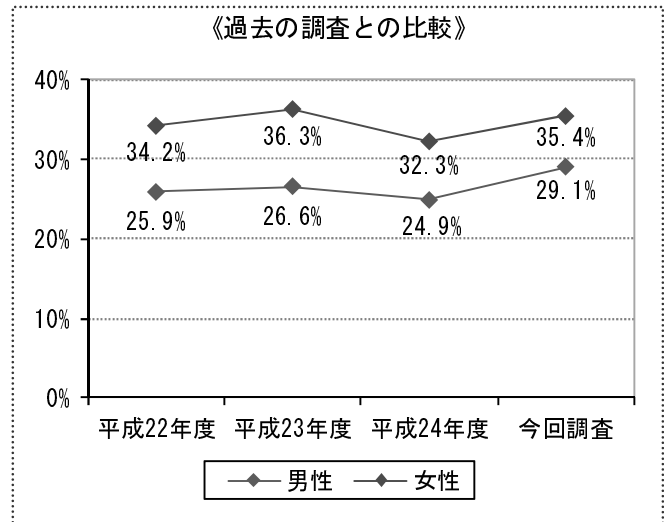
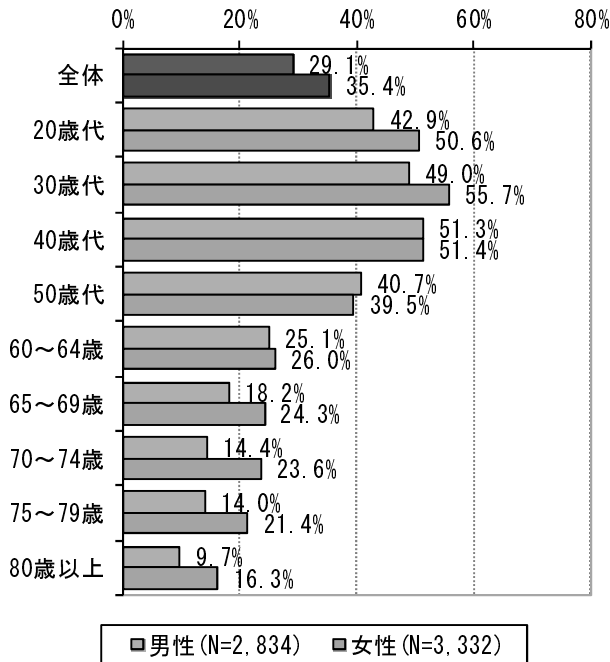
《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

- 肥満者の割合…20歳代～60歳代男性：27.6%〈目標値：26.0%〉
40歳代～60歳代女性：16.6%〈目標値：14.0%〉
- 20歳代女性のやせの割合…25.3%〈目標値：20.0%〉
- 低栄養傾向 (BMI 20以下) の高齢者 (65歳以上) の割合…21.4%〈目標値：21.2% (現状維持)〉

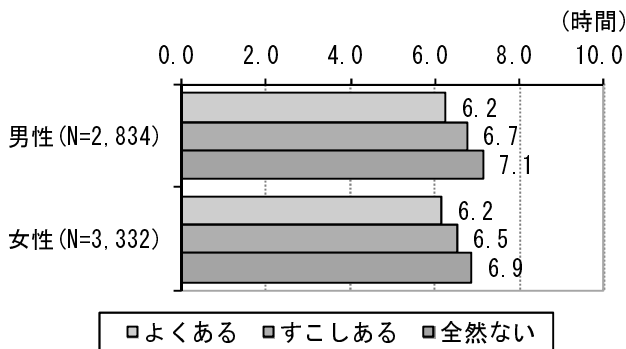
(2) 過去1か月間のストレスの状況

- 過去1か月間にストレスを感じたことが「よくある」人は、男性が29.1%、女性が35.4%で女性が多い。男女とも20～40歳代で4～5割台と多く、特に女性の30歳代が55.7%で最も多い。昨年度調査に比べて男女ともやや増加している。【図表2-3】
- ストレスを感じたことが「よくある」人は、そうでない人に比べて男女とも睡眠時間が短い傾向にある。【図表2-4】

【図表2-3】 過去1か月間にストレスを感じたことが「よくある」人の割合



【図表2-4】 ストレスの程度からみた平均睡眠時間

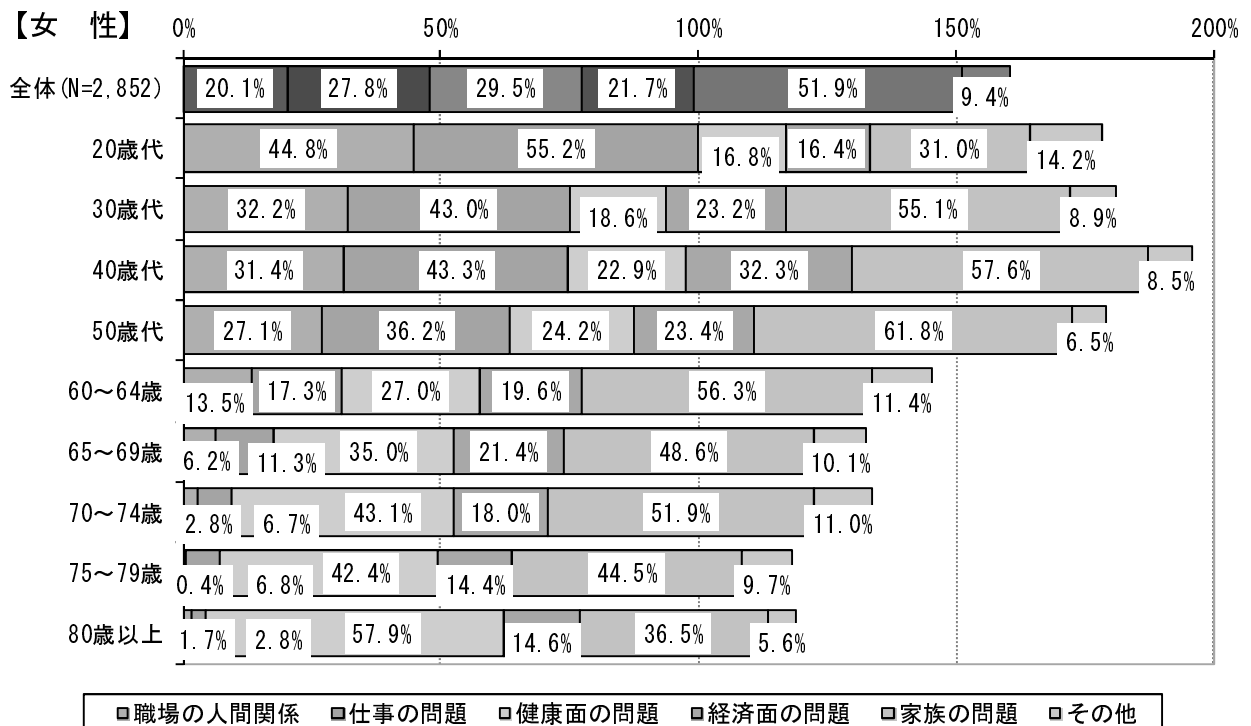
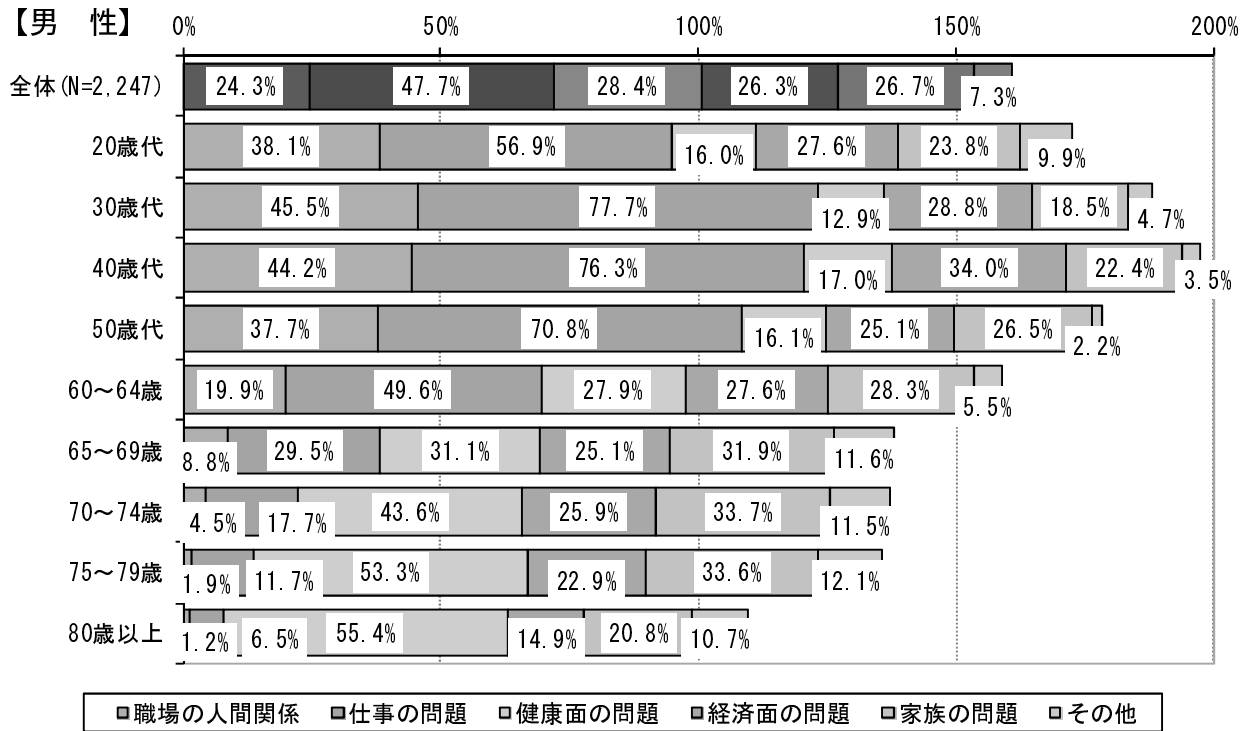


《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

- 7時間睡眠の人の割合…20～59歳全体：35.9% <目標値：31.9%>
 - ストレスを感じたことがある人^(※)の割合…男性：79.3% <目標値：67.1%>、女性：85.6% <目標値：74.6%>
- (※) ストレスを感じたことがある人：本調査は「よくある」と「すこしある」の合計

- 感じたストレスの内容は、男性の20～64歳では「仕事の問題」が最も多く、特に、30～50歳代では7割を超えている。また、70歳以上では「健康面の問題」が最も多い。【図表2-5】
- 女性の20歳代では「仕事の問題」が最も多いが、30～79歳では「家族の問題」が最も多く、特に30～64歳では5割を超えている。また、80歳以上では「健康面の問題」が最も多い。【図表2-5】
- 男性では「職場の人間関係」や「仕事の問題」といった仕事関連の項目をあげる人が多く、女性では「家族の問題」をあげる人が多い。【図表2-5】

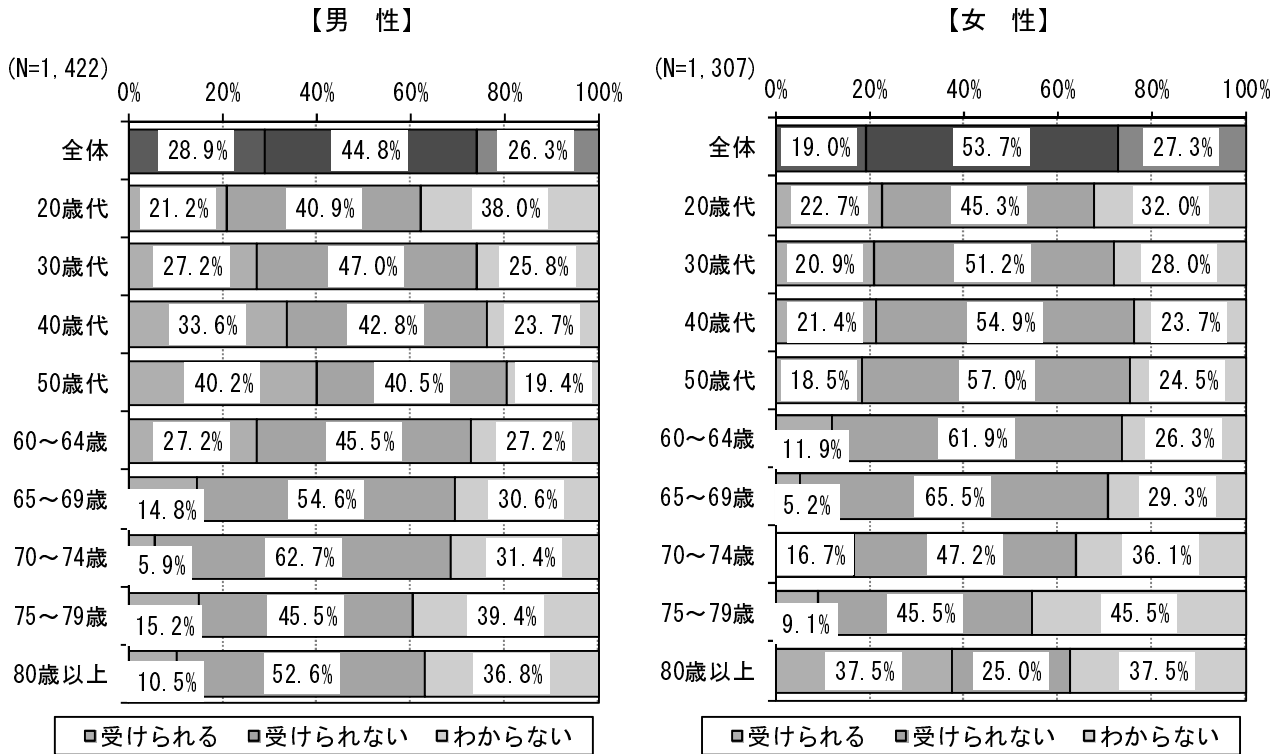
【図表2-5】 過去1か月間にストレスを感じたことがある人が感じたストレスの内容（複数回答）



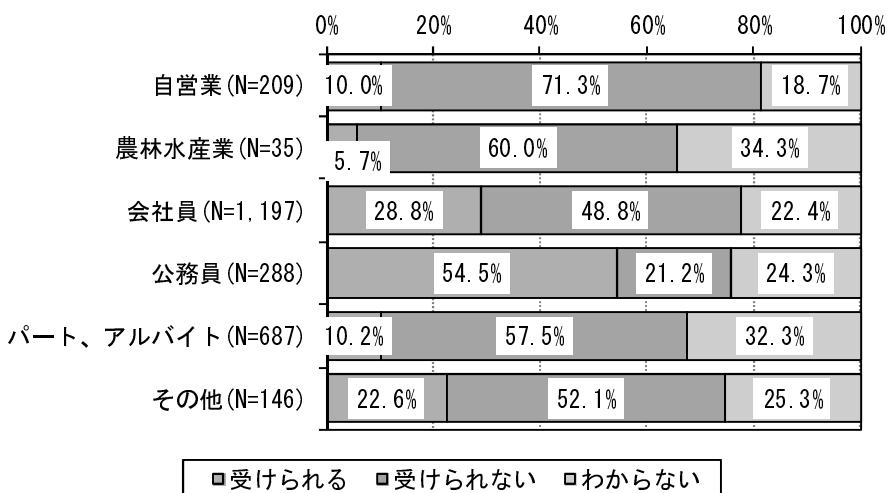
(3) 職場でのメンタルヘルスに関する支援の状況

- 職場で専門家によるストレス等の相談を「受けられる」人は、男性が28.9%、女性が19.0%で男性が多い。「受けられる」人は、男性では、50歳代まで年齢が高いほど多い傾向にある。女性では、69歳まで年齢が高いほど少ない傾向にある。また、30～50歳代では男性が女性に比べて多い。【図表2-6】
- 職業からみると、「公務員」が54.5%で最も多く、次いで「会社員」が28.8%となっている。【図表2-7】

【図表2-6】 職場で専門家によるストレス等の相談を「受けられる」人の割合



【図表2-7】 職業からみた職場で専門家によるストレス等の相談を「受けられる」人の割合



※いずれも「会社に勤めていない」と「無回答」を除いて集計

《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

●メンタルヘルスに関する支援を受けられる職場の割合…全体：24.2%〈目標値：未設定〉

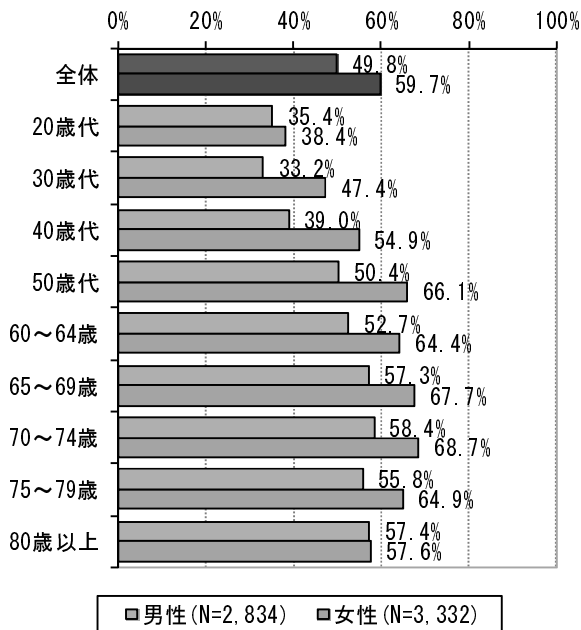
※本調査の「学生」と「無職」を除いた割合。「その他」には、具体的な職業や職種、雇用（就労）形態不明の回答が含まれる。

3 生活習慣について

(1) 食生活習慣

- 健康な食生活習慣のために半年以上継続している取り組みが「ある」人は、男性が49.8%、女性が59.7%で、いずれの年齢でも女性が男性に比べて多く、年齢が高いほど実践者が多い傾向にある。【図表3-1】
- 健康な食生活習慣のために半年以上継続している取り組みの内容は、男女とも「毎日牛乳または乳製品をとっている」と「毎日野菜料理を食べている」が上位2項目にあげられ、次いで、男性では「食事は腹八分目にしている」、女性では「油の多い料理を控えている」が多い。【図表3-2】

【図表3-1】健康な食生活習慣のために半年以上継続している取り組みが「ある」人の割合



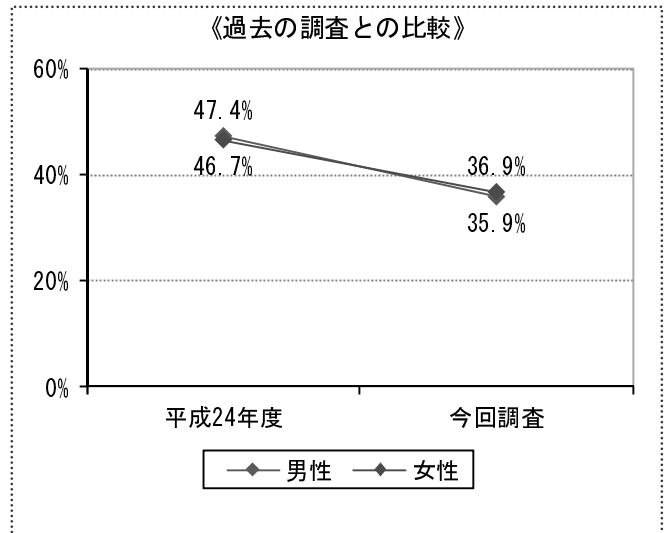
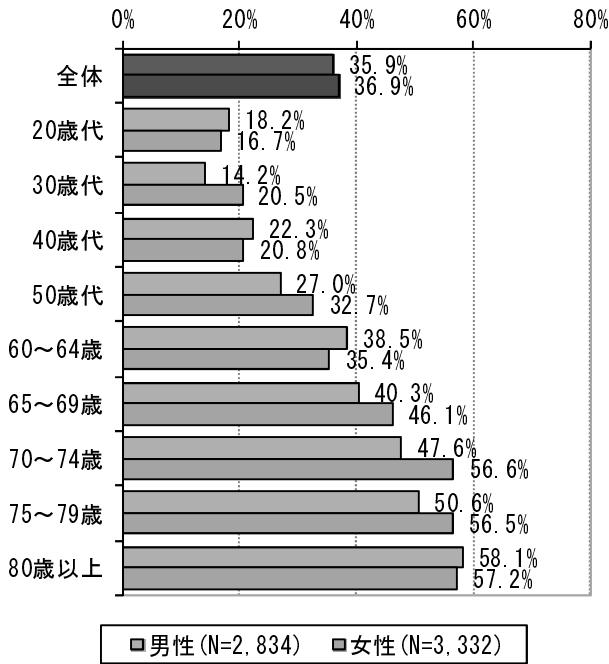
【図表3-2】健康な食生活習慣のために半年以上継続している取り組みの内容（複数回答）

	性別	年齢層	食事は腹八分目にしている	食事は10分以上かけている	毎日牛乳または乳製品をとっている	毎日野菜料理を食べている	毎日果物を食べている	味噌汁やスープなどは1日2杯以上飲まないようにしている	油の多い料理を控えている	肉より魚を食べている	外食をしないようにしている	アルコール休肝日を作っている
			男性 N=1,412 女性 N=1,989									
男性	全体		45.8%	35.4%	47.6%	60.1%	29.2%	22.6%	38.0%	38.2%	22.7%	25.3%
	20歳代		37.1%	28.6%	51.4%	40.0%	14.3%	7.1%	10.0%	4.3%	14.3%	25.7%
	30歳代		32.9%	29.3%	48.8%	53.7%	13.4%	7.3%	23.2%	12.2%	12.2%	36.6%
	40歳代		34.6%	27.1%	40.6%	59.4%	12.8%	19.5%	23.3%	23.3%	10.5%	29.3%
	50歳代		39.7%	20.6%	39.2%	51.2%	16.7%	13.4%	33.5%	26.3%	15.3%	27.8%
	60～64歳		39.5%	31.9%	40.0%	54.1%	23.2%	22.7%	38.9%	42.2%	18.4%	25.9%
	65～69歳		49.5%	35.4%	48.4%	63.5%	36.5%	27.6%	40.6%	44.8%	24.5%	20.8%
	70～74歳		44.6%	41.0%	50.8%	67.2%	41.5%	24.6%	46.2%	50.3%	24.6%	19.0%
	75～79歳		60.7%	43.2%	56.3%	71.6%	43.2%	29.5%	54.1%	53.0%	38.8%	27.3%
80歳以上		60.4%	57.2%	56.6%	67.3%	42.1%	35.8%	42.8%	50.9%	34.6%	23.3%	
女性	全体		37.3%	36.1%	60.5%	74.8%	39.1%	26.1%	49.1%	36.3%	25.2%	11.9%
	20歳代		20.2%	34.0%	51.1%	57.4%	22.3%	12.8%	29.8%	11.7%	10.6%	13.8%
	30歳代		23.0%	22.4%	53.6%	65.6%	25.7%	8.7%	25.7%	11.5%	18.0%	19.1%
	40歳代		27.5%	26.0%	51.5%	69.8%	18.3%	14.5%	27.9%	13.7%	16.8%	19.1%
	50歳代		31.6%	22.9%	58.9%	73.5%	29.3%	19.8%	50.3%	28.5%	18.7%	14.5%
	60～64歳		35.0%	33.5%	63.5%	73.1%	40.0%	26.5%	51.9%	38.1%	24.6%	10.0%
	65～69歳		40.7%	38.9%	60.6%	79.6%	49.6%	32.3%	63.7%	50.9%	30.1%	8.8%
	70～74歳		46.0%	50.8%	70.8%	82.0%	52.8%	38.0%	61.6%	52.0%	31.6%	8.0%
	75～79歳		48.8%	53.7%	70.0%	84.2%	57.1%	43.3%	60.6%	60.6%	35.0%	6.4%
80歳以上		64.2%	56.1%	59.5%	78.4%	60.8%	37.8%	60.8%	57.4%	43.9%	5.4%	

※網かけは、各年齢層の上位3項目を示している。

- 「ほとんど『日本型食生活』である」人は、男性が35.9%、女性が36.9%で、男女とも年齢が高いほど多い傾向にあり、若年層ほど「日本型食生活」を心がけていない人が多いと言える。昨年度調査に比べて男女とも減少している。【図表3-3】
- 時間をかけてよく噛んで（ひと口20～30回）「食べている」人は、男性が19.8%、女性が19.2%で、50歳以上では年齢が高いほど多い傾向にある。【図表3-4】
- 体型からみた時間をかけてよく噛んで「食べている」人は、やせほど多い傾向にある。逆に、よく噛んで「食べていない」は、肥満ほど多い傾向にあり、体型に関係なく半数を超えている。【図表3-5】

【図表3-3】「ほとんど『日本型食生活』である」人の割合

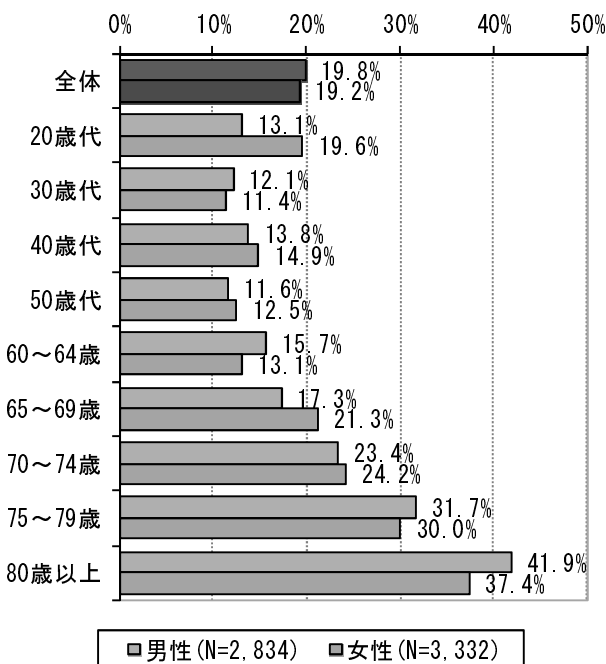


《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

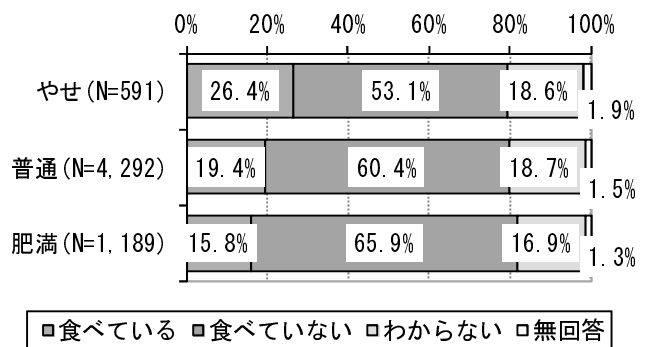
- 日本型食生活をほぼ毎日としている人の割合
…全体：36.5% <目標値：52.0%>

※本調査の「ほとんど『日本型食生活』である」の割合

【図表3-4】時間をかけてよく噛んで「食べている」人の割合



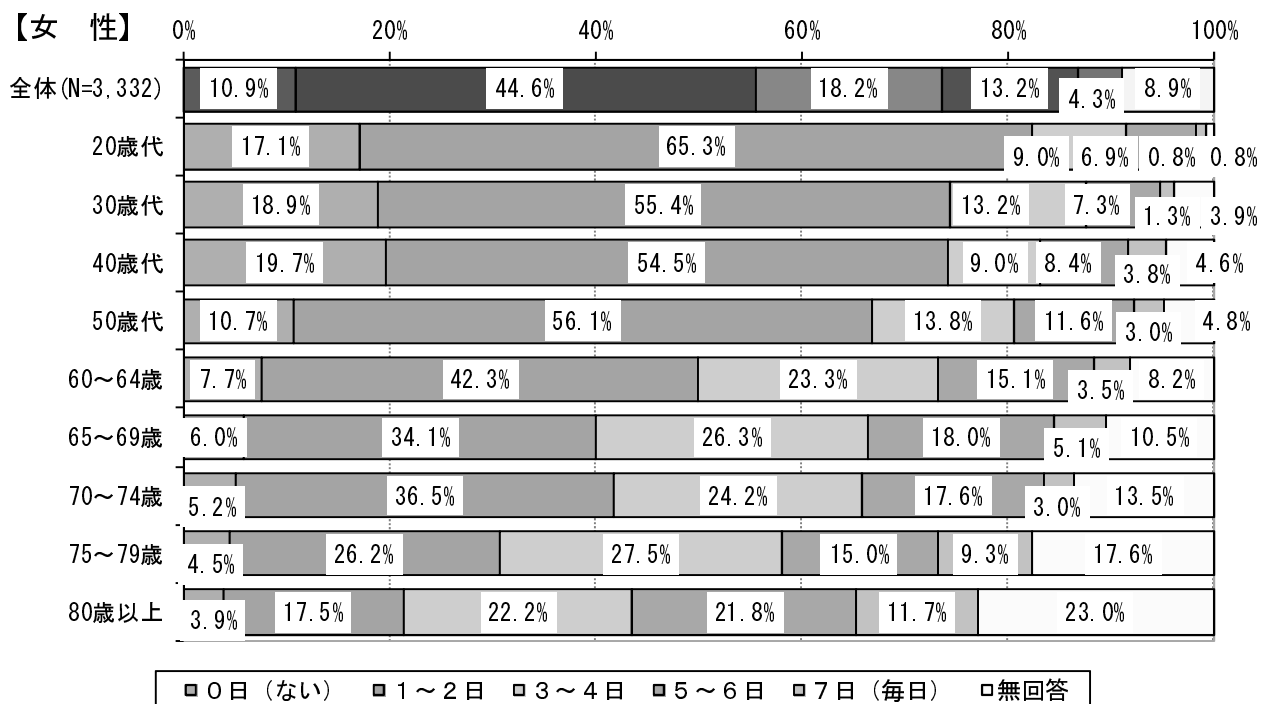
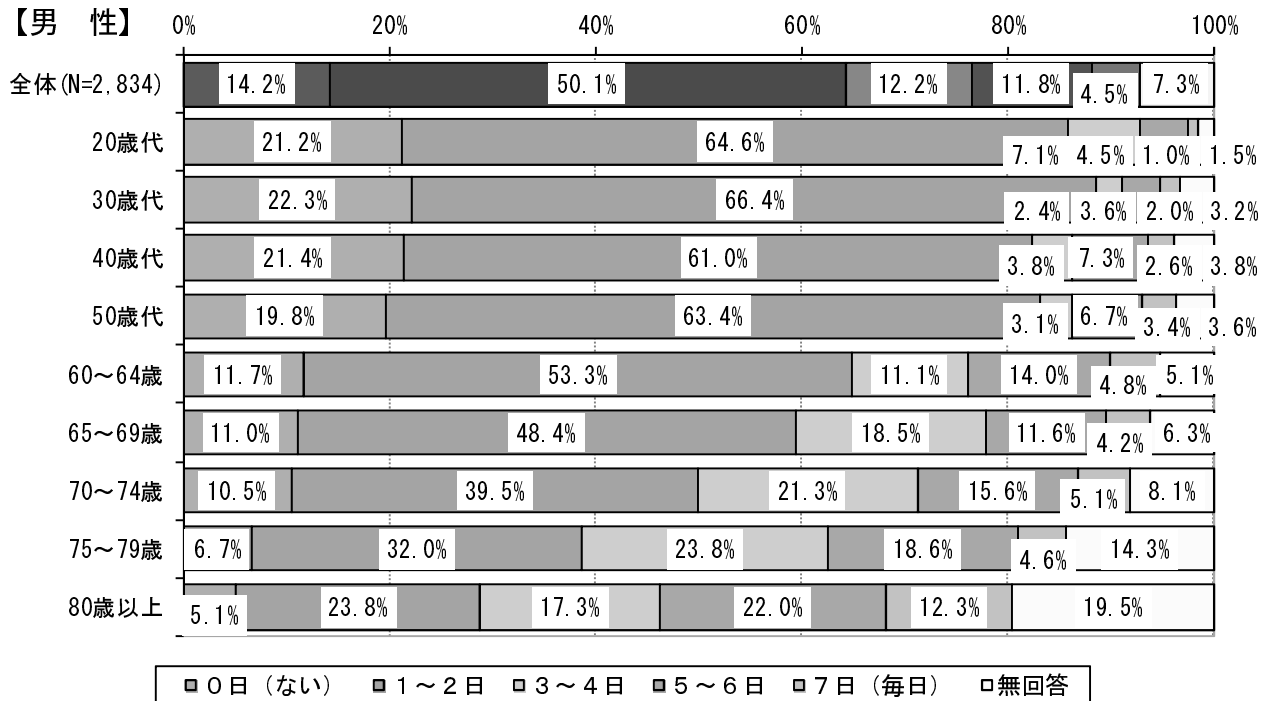
【図表3-5】体型からみた時間をかけてよく噛んで「食べている」人の割合



(2) 外出、運動習慣

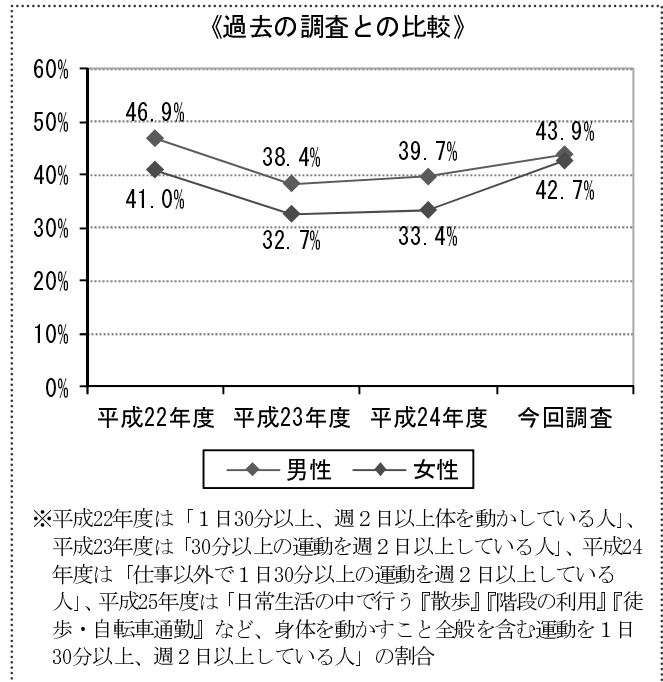
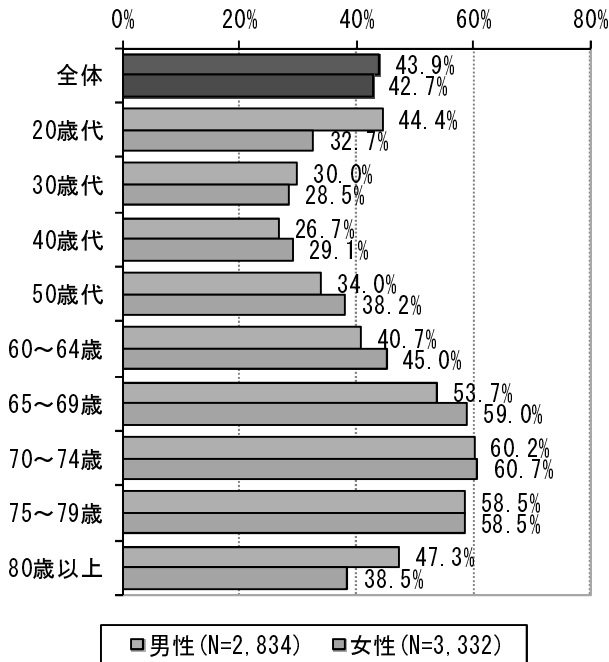
- 外出せず、もっぱら家及びその周辺で過ごす日数は、男性の50歳代以下では8割以上が「1～2日」以下であるが、60歳を境に外出しない日数が大幅に増加し、60歳以上では年齢が高いほど外出しない日数が多い傾向にある。**【図表3-6】**
- 女性は、50歳を境に外出しない日数が大幅に増加し、年齢が高いほど外出しない日数が多い傾向にある。**【図表3-6】**

【図表3-6】 外出せず、もっぱら家及びその周辺で過ごす日数



- 1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上している人は、男性が43.9%、女性が42.7%で、昨年度調査に比べて男女とも増加している。【図表3-7】
- 1日30分以上歩いている人は、男性が62.4%、女性が53.7%で男性が多い。【図表3-8】
- 1日合計30分以上の運動・スポーツの週2日以上の実践者は30～40歳代で少なく、65～79歳で多くなった。また、1日30分以上の歩行実践者は、80歳以上を除き年齢による差は小さいが、30～40歳代の女性でやや少ない傾向にある。【図表3-7・3-8】

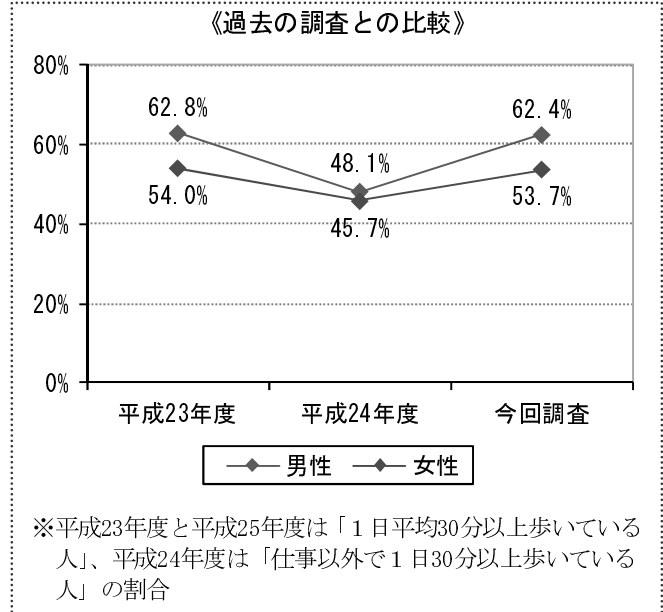
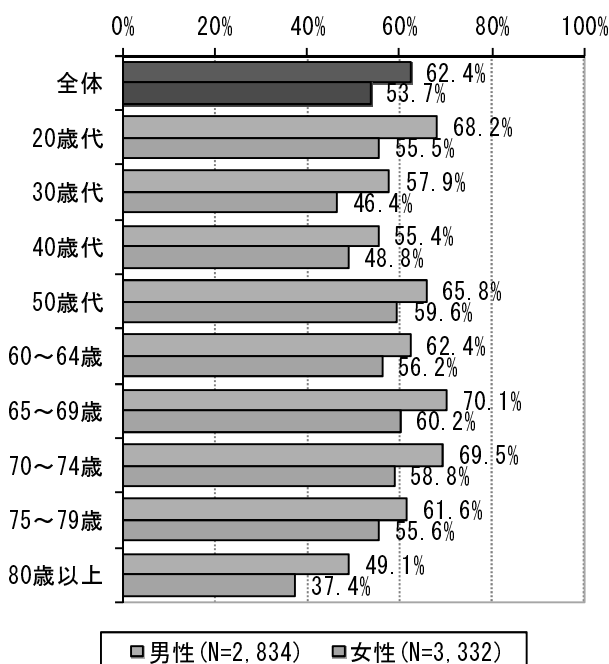
【図表3-7】 1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上している人の割合



《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

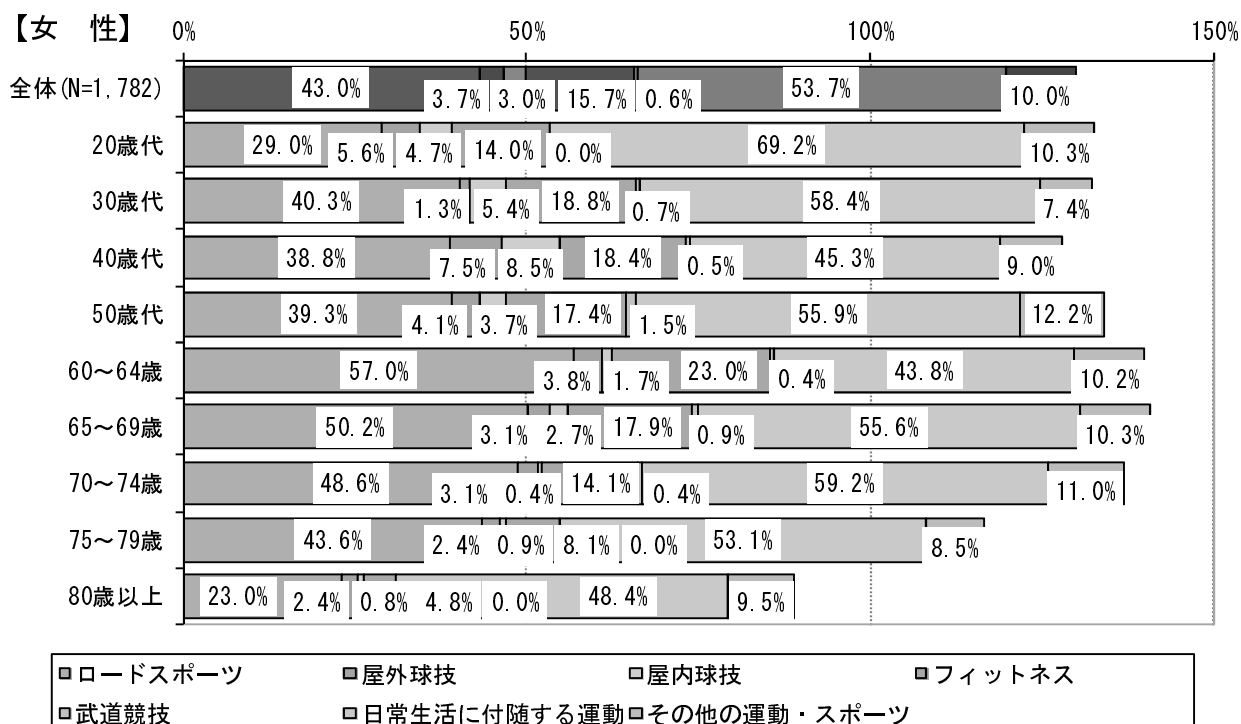
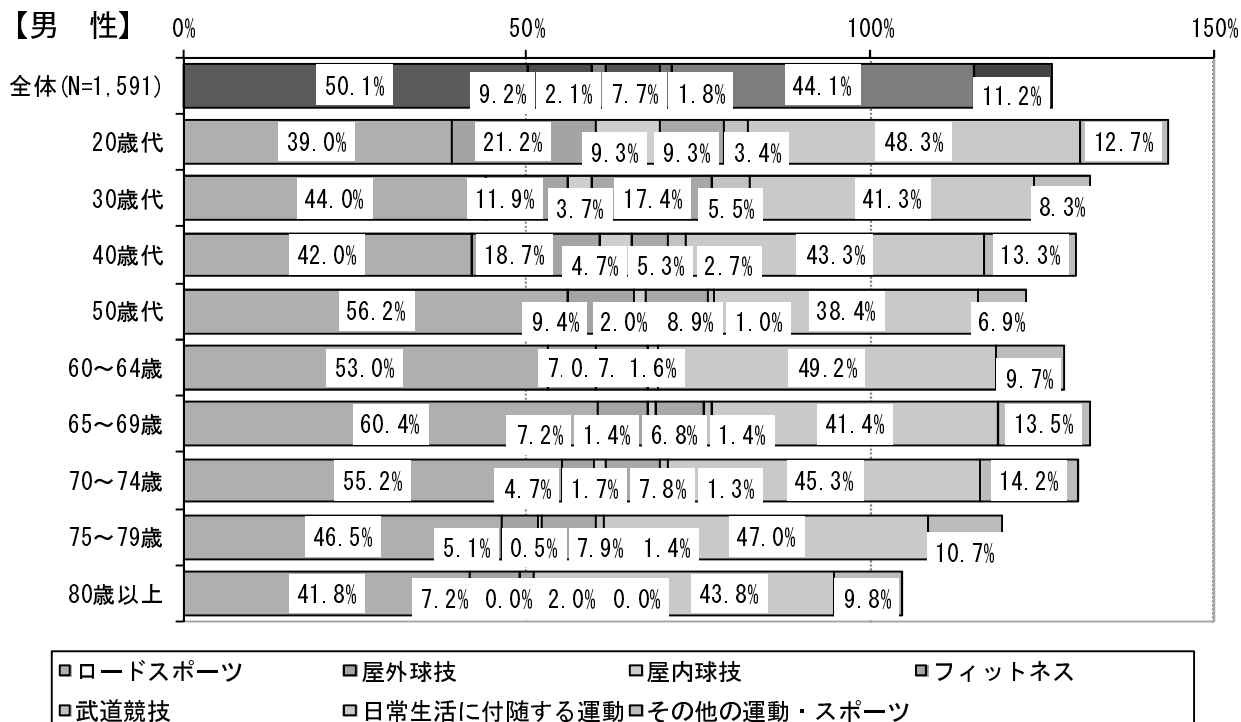
- 運動習慣者（1日30分以上の運動を週2日以上）の割合
 - …20～64歳男性：34.6%〈目標値：42.0%〉、20～64歳女性：35.0%〈目標値：39.0%〉
 - …65歳以上男性：55.3%〈目標値：62.0%〉、65歳以上女性：55.2%〈目標値：50.0%〉

【図表3-8】 1日30分以上歩いている人の割合



○ 1日合計30分以上取り組んでいる運動・スポーツの内容は、男性は「ロードスポーツ」が最も多い。年齢別には20歳代と40歳代と75歳以上では「日常生活に付随する運動」が最も多く、他の年齢層では「ロードスポーツ」が最も多い。女性は「日常生活に付随する運動」が最も多い。年齢別には60～64歳では「ロードスポーツ」が最も多く、他の年齢層では「日常生活に付随する運動」が最も多い。【図表3-9】

【図表3-9】 1日合計30分以上取り組んでいる運動・スポーツの内容（複数回答）

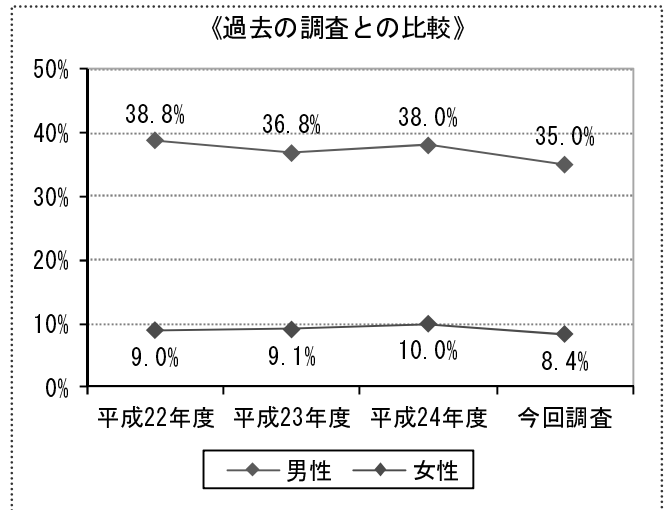
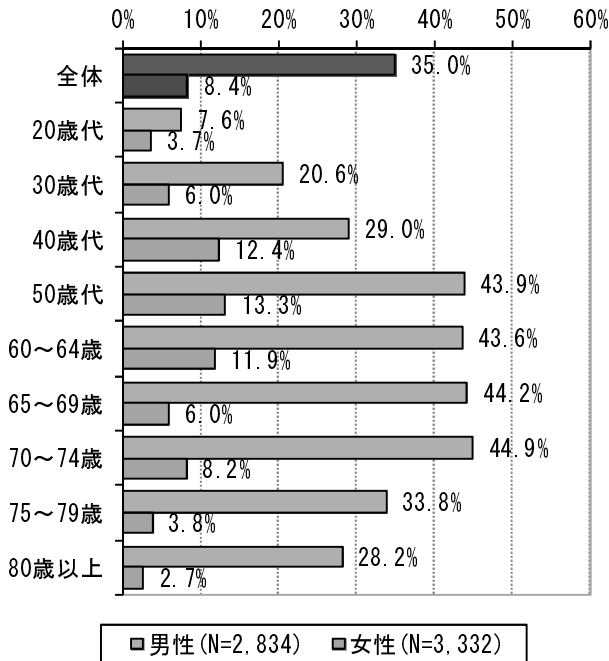


※ 「ロードスポーツ」：ウォーキング・ジョギング・サイクリング・散歩など、「屋外球技」：野球・サッカー・テニスなど、「屋内球技」：バスケットボール・バレーボールなど、「フィットネス」：エアロビクス等の体操・水泳・スポーツジムなど、「武道競技」：柔道・剣道・弓道・空手など、「日常生活に付随する運動」：通勤・農作業・運搬作業・買い物など

(3) 飲酒・喫煙の状況

- アルコール類を「ほとんど毎日飲んでいる」人は、男性が35.0%、女性が8.4%で、いずれの年齢も男性が女性に比べて多い。男性の50～74歳では4割台と特に多い。過去3回の調査との比較では、男性は減少傾向にある。【図表3-10】
- たばこを「現在吸っている」人は、男性が24.9%、女性が6.5%で、いずれの年齢でも男性が女性に比べて多い。男性は40歳代、女性は30歳代で最も多い。過去3回の調査との比較では、男女とも横ばいの傾向にある。【図表3-11】

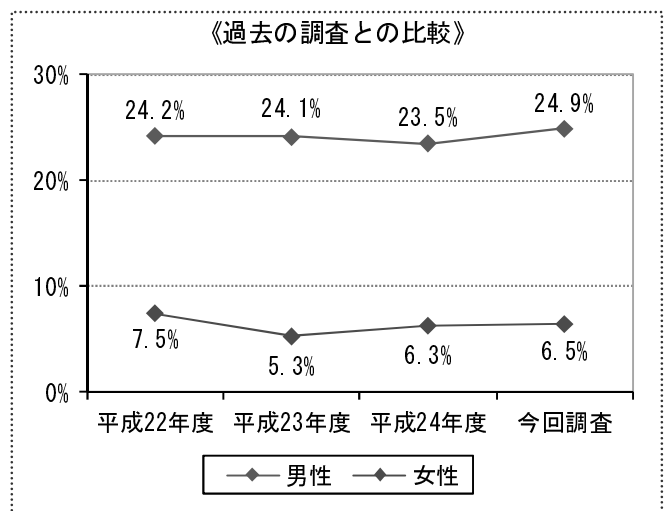
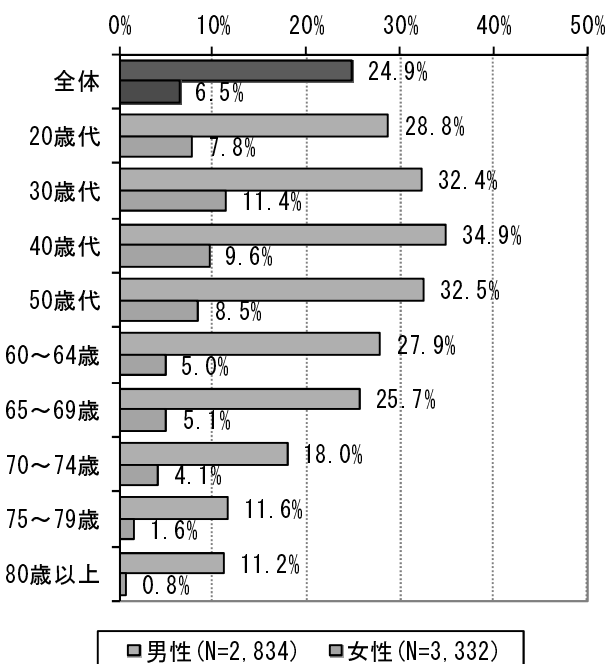
【図表3-10】 アルコール類を「ほとんど毎日飲んでいる」人の割合



《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

- 毎日飲酒をしている人の割合
 - …男性：35.0% < 目標値：25.1%
 - …女性：8.4% < 目標値：5.9%

【図表3-11】 たばこを「現在吸っている」人の割合



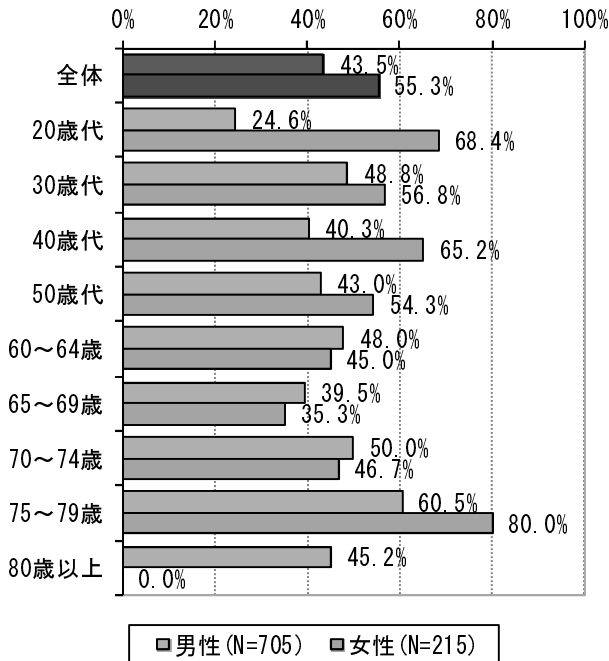
《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

- 成人の喫煙率
 - …全体：15.0% < 目標値：9.9%
 - …男性：24.9% < 目標値：18.0%
 - …女性：6.5% < 目標値：2.8%

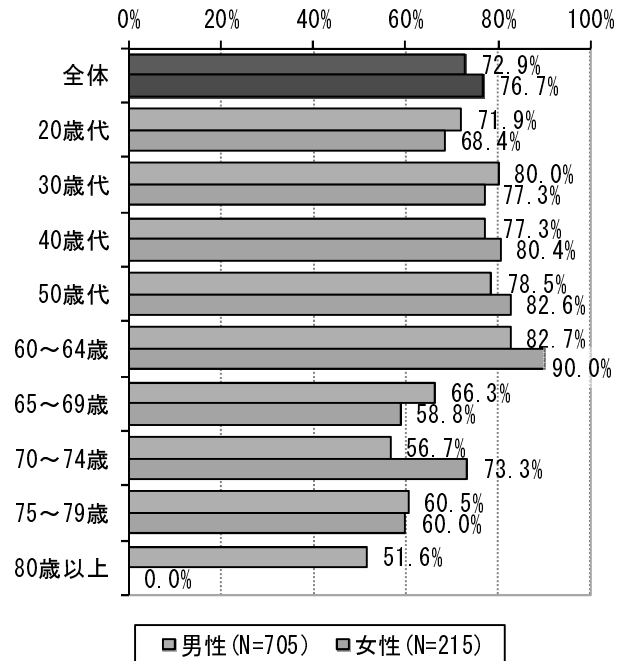
- 現在喫煙している人のうち、たばこを「やめたい」人は、男性が43.5%、女性が55.3%で女性が多い。男性の20歳代が24.6%で最も少ないが目立つ。【図表3-12】
- 現在喫煙している人のうち、たばこをやめる方法を「知っている」人は、男性が72.9%、女性が76.7%で、男女とも65歳以上になると5割台～6割台と低下している。【図表3-13】

※女性は喫煙者が少ないため、年齢別の比較は上記では割愛している。

【図表3-12】 たばこを「やめたい」人の割合



【図表3-13】 たばこをやめる方法を「知っている」人の割合



《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

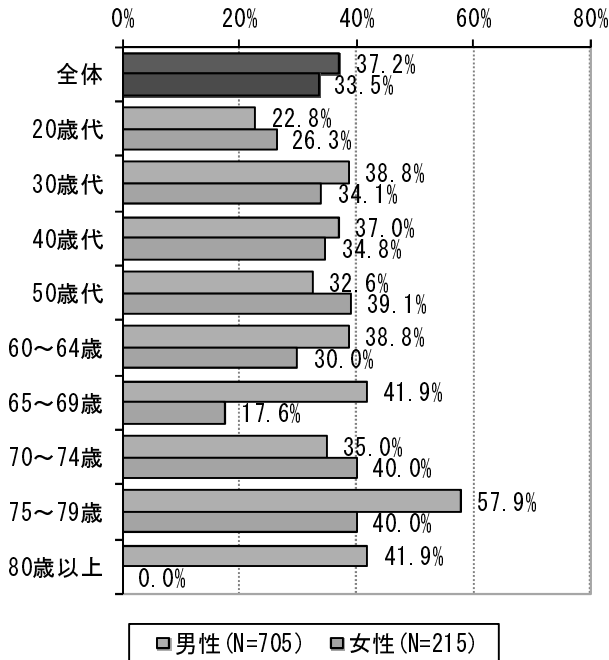
●禁煙方法（たばこをやめる方法）を知っている人の割合…全体：73.9%〈目標値：未設定〉

※本調査のたばこを「現在吸っている」人を集計母数として算出

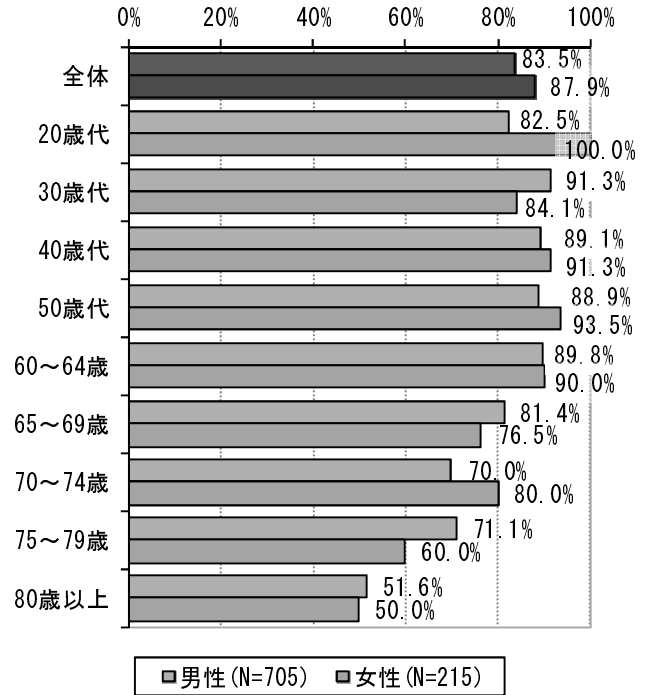
○ 現在喫煙している人のうち、たばこをやめる方法を試したことが「ある」人は、男性が37.2%、女性が33.5%であって、たばこをやめる治療をする医療機関があることを「知っている」人は、男性が83.5%、女性が87.9%で女性が高く、男女とも65歳以上では「知っている」人が少ない傾向にある。【図表3-14・3-15】

※女性は喫煙者が少ないため、年齢別の比較は上記では割愛している。

【図表3-14】 たばこをやめる方法を試したことが「ある」人の割合



【図表3-15】 たばこをやめる治療をする医療機関があることを「知っている」人の割合



《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

● 禁煙支援ができる（たばこをやめる治療をする）医療機関を知っている人の割合

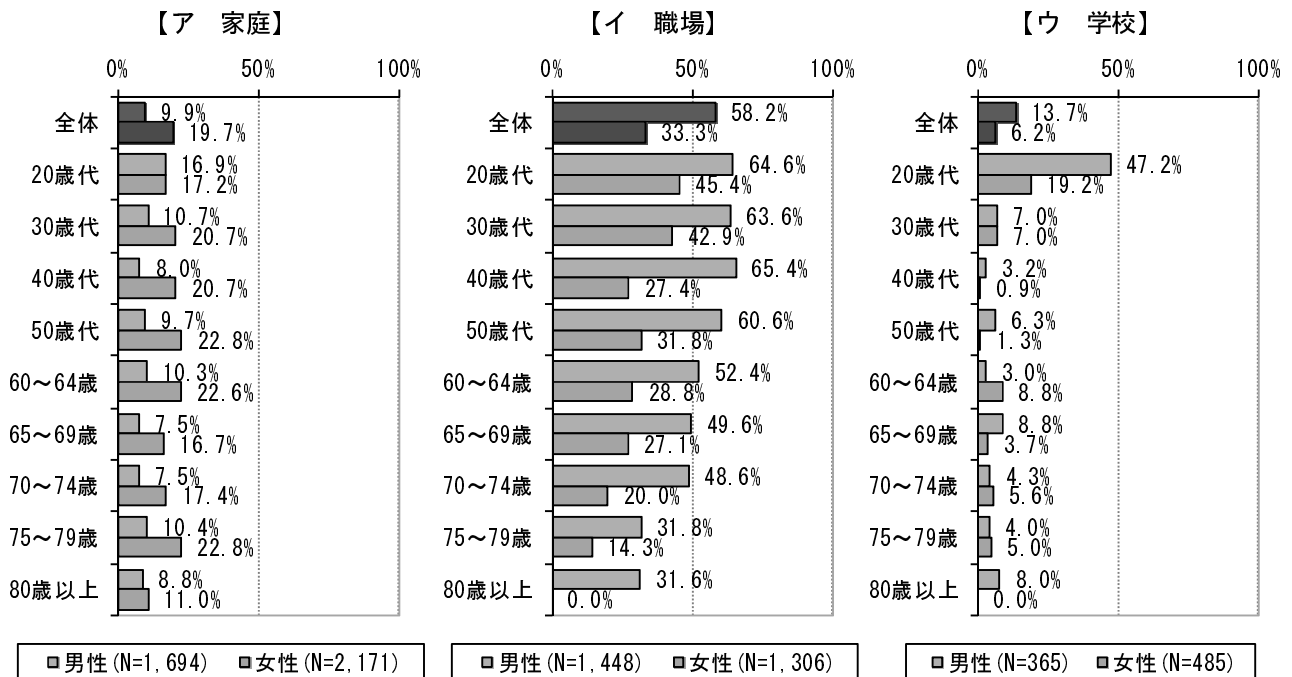
…全体：84.7%〈目標値：未設定〉

※本調査のたばこを「現在吸っている」人を集計母数として算出

(4) 受動喫煙の状況、喫煙による影響の理解

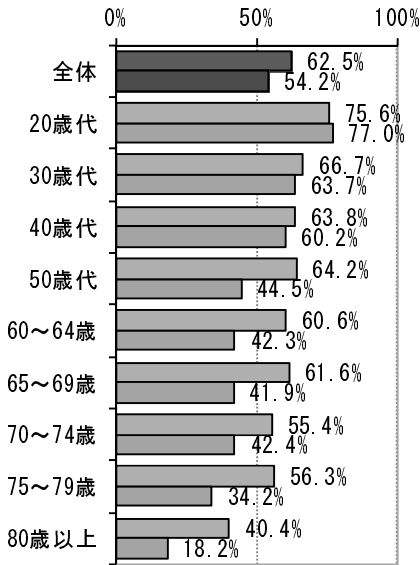
- 過去1か月間にア～キの7つの場面で受動喫煙を経験した人の状況は、以下のとおりである。
- 「ア 家庭」では、男性が9.9%、女性が19.7%で女性が多い。いずれの年齢でも女性が男性に比べて多く、20歳代と80歳以上を除いて、男女間でおおむね10ポイント以上の差がある。【図表3-16-ア】
- 「イ 職場」では、男性が58.2%、女性が33.3%で男性が多い。いずれの年齢でも男性が女性に比べて多く、男女とも年齢が低いほど多い傾向にある。【図表3-16-イ】
- 「ウ 学校」では、男性が13.7%、女性が6.2%で、20歳代では、男性が47.2%、女性が19.2%で男性が多い。【図表3-16-ウ】
- 「エ 飲食店」では、男性が62.5%、女性が54.2%で男性が多いが、30歳代以上では男性が女性に比べて多く、男女とも年齢が低いほど多い傾向にある。【図表3-16-エ】
- 「オ 遊技場」では、男性が59.9%、女性が32.5%で男性が多い。いずれの年齢でも男性が女性に比べて多く、男女とも20歳代で最も多い。【図表3-16-オ】
- 「カ 行政機関」では、男性が17.1%、女性が11.6%で、性・年齢による顕著な差はみられない。【図表3-16-カ】
- 「キ 医療機関」では、男性が11.0%、女性が8.4%で、性・年齢による顕著な差はみられない。【図表3-16-キ】

【図表3-16】 過去1か月間に受動喫煙を経験した人の割合



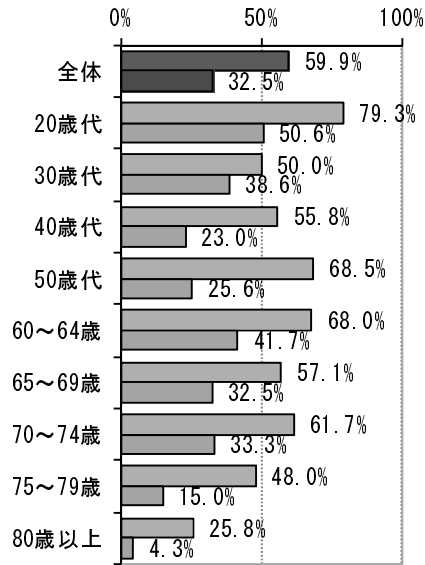
※ 「ア 家庭」は「ほぼ毎日」の割合、その他は「ほぼ毎日」「週に数回程度」「週に1回程度」「月に1回程度」の合計の割合。
集計母数は「ほぼ毎日」「週に数回程度」「週に1回程度」「月に1回程度」「全くなかった」の合計

【工 飲食店】



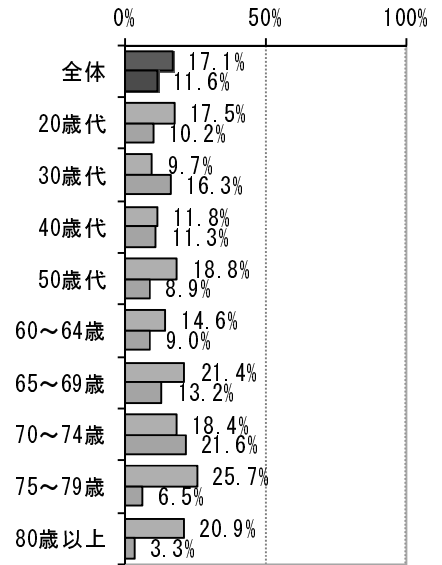
□男性 (N=1,349) □女性 (N=1,529)

【才 遊技場】



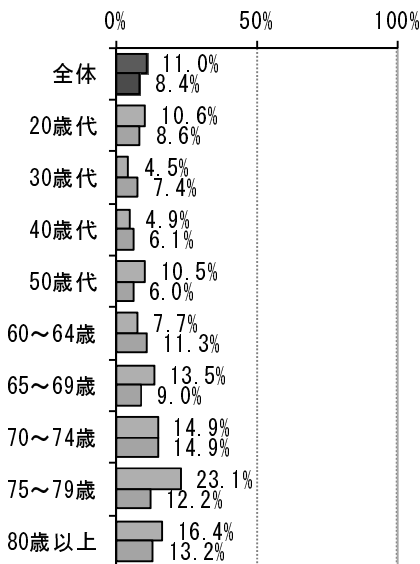
□男性 (N=623) □女性 (N=496)

【力 行政機関】



□男性 (N=791) □女性 (N=868)

【キ 医療機関】



□男性 (N=1,008) □女性 (N=1,238)

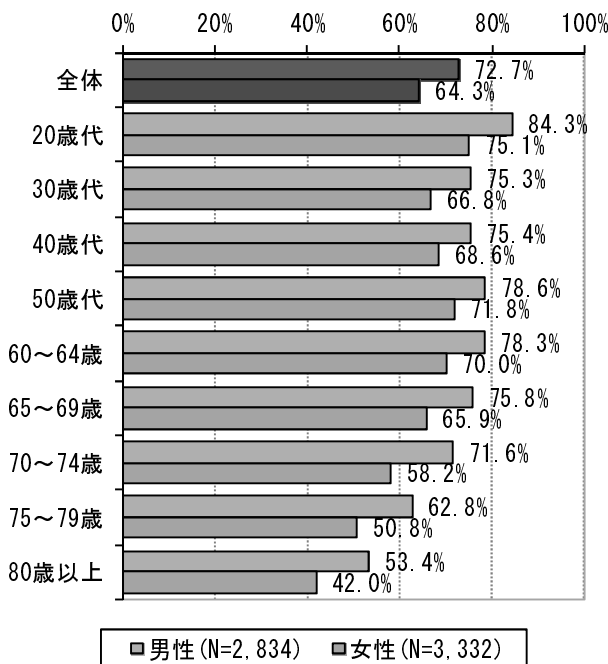
《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

●日常生活で受動喫煙の機会を有する人

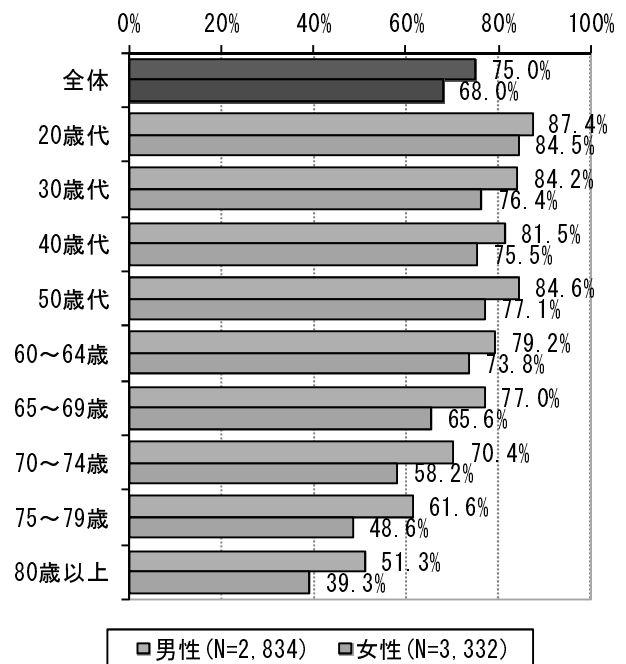
- ・家庭…全体：15.5% <目標値：2.6%>
- ・飲食店…全体：58.1% <目標値：14.8%>
- ・医療機関…全体：9.7% <目標値：0.0%>
- ・職場…全体：46.4% <目標値：12.4%>
- ・行政機関…全体：14.2% <目標値：0.0%>

- 喫煙による健康への影響を「知っている」人（理解度）は以下のとおりである。
- 喫煙者は心臓病にかかりやすいことへの理解度は、男性が72.7%、女性が64.3%で男性が高い。いずれの年齢でも男性の理解度が女性に比べて高く、また、若年層・中年層の認知率が高齢層に比べて高い傾向にある。【図表3-17】
- 喫煙者は脳卒中にかかりやすいことへの理解度は、男性が75.0%、女性が68.0%で男性が高い。いずれの年齢でも男性の理解度が女性に比べて高く、また、若年層・中年層の理解度が高齢層に比べて高い傾向にある。【図表3-18】
- 喫煙者は歯周病にかかりやすいことへの理解度は、男性が45.3%、女性が47.4%で、40歳代～79歳では女性の理解度が男性に比べて高く、他の年齢では逆転している。また、年齢層が低いほど理解度が高い傾向にある。【図表3-19】
- 妊娠中の喫煙で早産が起こりやすくなることへの理解度は、男性が47.2%、女性が68.0%で女性が高い。いずれの年齢でも女性の理解度が男性に比べて高く、また、年齢が低いほど理解度が高い傾向にあるが、女性の30～50歳代では8割以上と特に高い。【図表3-20】
- 妊娠中の喫煙で低体重児が生まれやすくなることへの理解度は、男性が34.7%、女性が54.4%で女性が高い。いずれの年齢でも女性の理解度が男性に比べて高く、また、年齢が低いほど理解度が高い傾向にある。【図表3-21】
- 受動喫煙で肺がんにかかりやすくなることへの理解度は、男性が84.0%、女性が86.6%で、年齢が低いほど理解度が高い傾向にある。【図表3-22】
- 子どもの頃からの喫煙でニコチン依存症になりやすいことへの理解度は、男性が66.0%、女性が62.2%で、年齢が低いほど理解度が高い傾向にある。【図表3-23】
- 過去の調査と比べると、「心臓病」「脳卒中」「歯周病」の理解度は、男女とも毎回上昇している。
- 他方、「早産」「低体重児出産」「受動喫煙による周囲の人の肺がん」の理解度は、男女とも平成12年度から平成16年度にかけては上昇したが、今回は前回に比べて低下している。

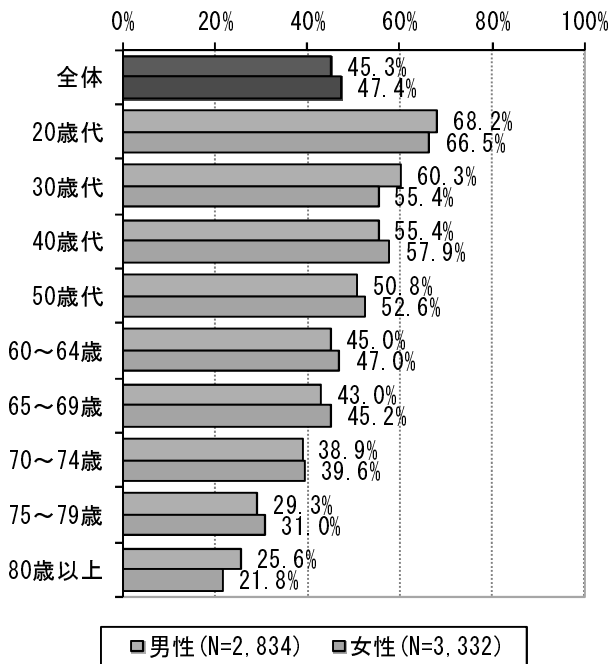
【図表3-17】 喫煙者は心臓病にかかりやすいことを「知っている」人の割合



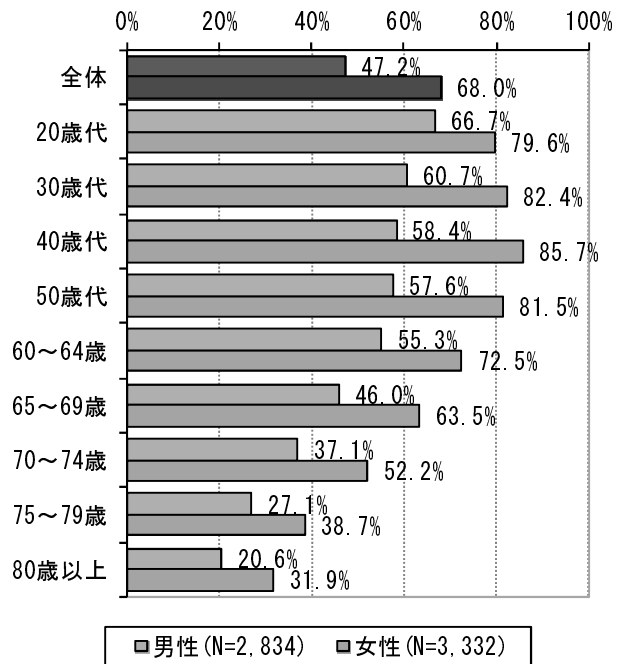
【図表3-18】 喫煙者は脳卒中にかかりやすいことを「知っている」人の割合



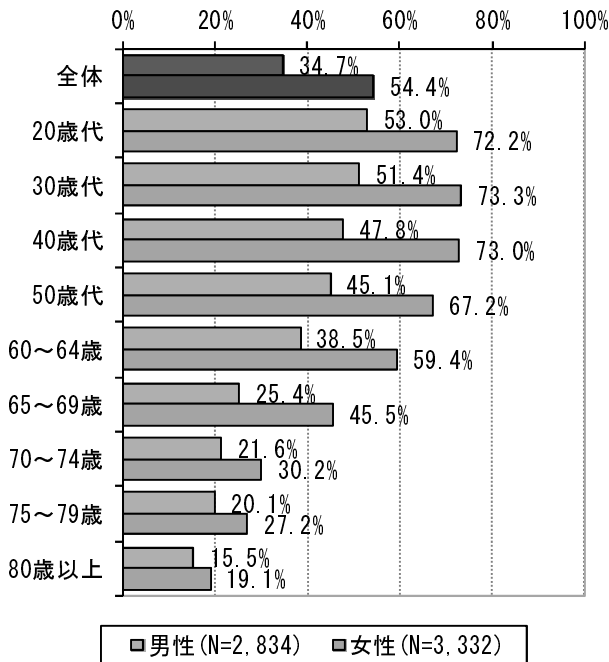
【図表3-19】喫煙者は歯周病にかかりやすいことを「知っている」人の割合



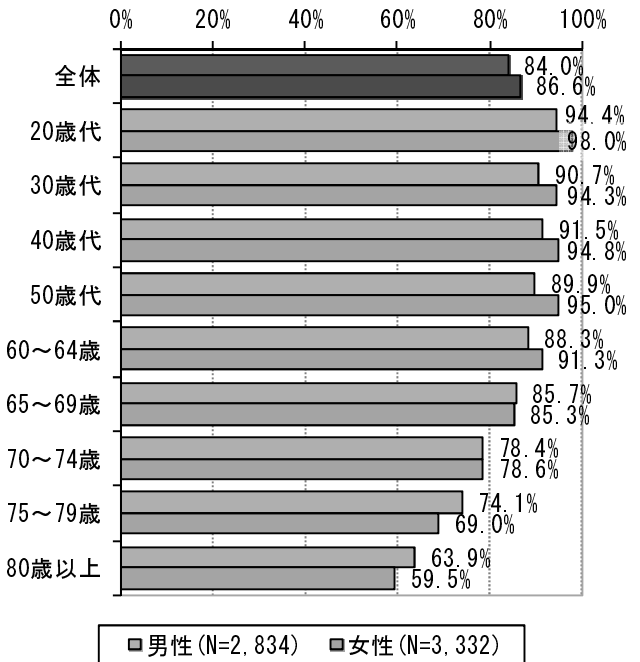
【図表3-20】妊娠中の喫煙で早産が起こりやすくなることを「知っている」人の割合



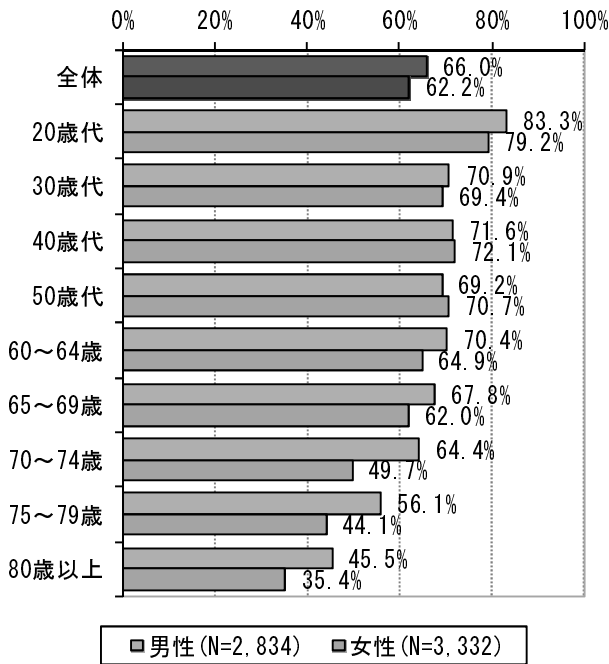
【図表3-21】妊娠中の喫煙で低体重児が生まれやすくなることを「知っている」人の割合



【図表3-22】受動喫煙で肺がんにかかりやすくなることを「知っている」人の割合

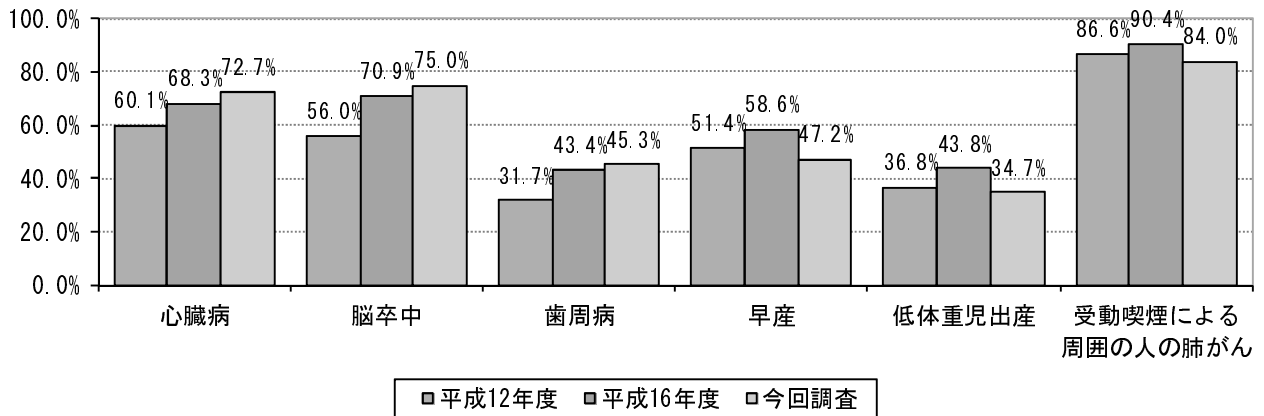


【図表3-23】子どもの頃からの喫煙でニコチン依存症になりやすいことを「知っている」人の割合

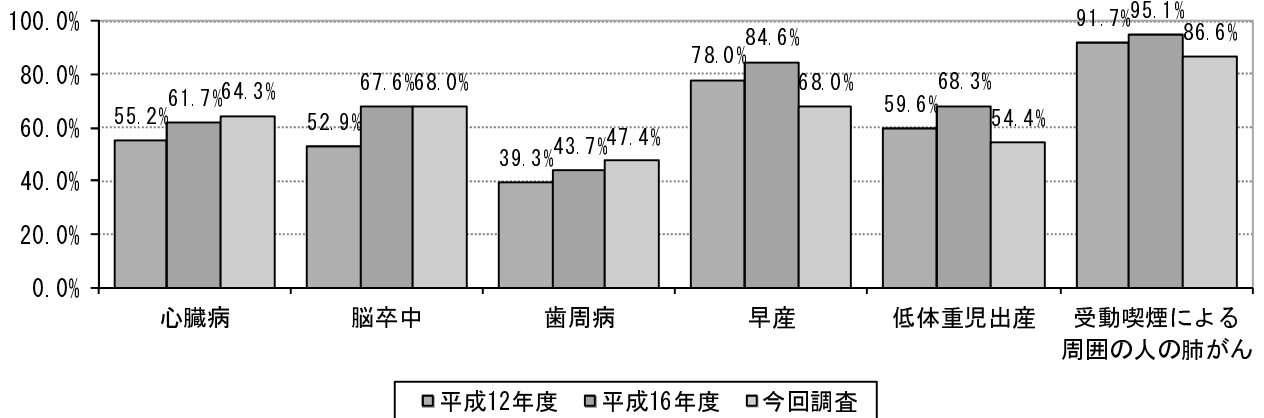


《過去の調査との比較》

【男性】



【女性】

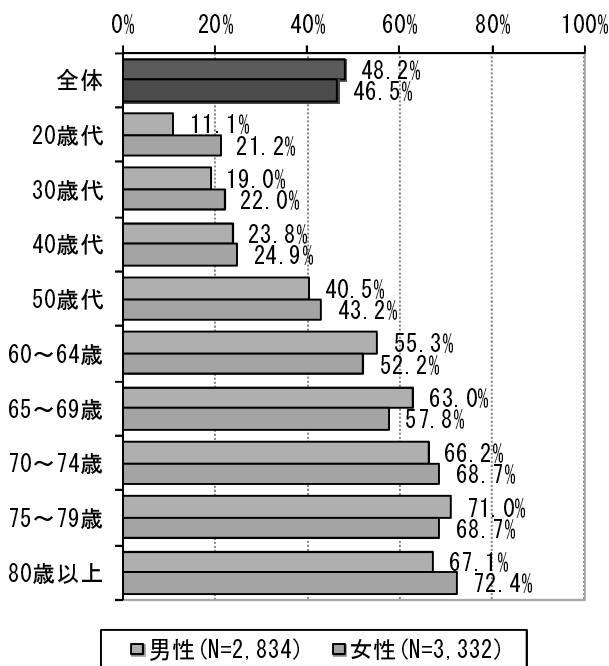


4 医療や健診（検診）の受診状況

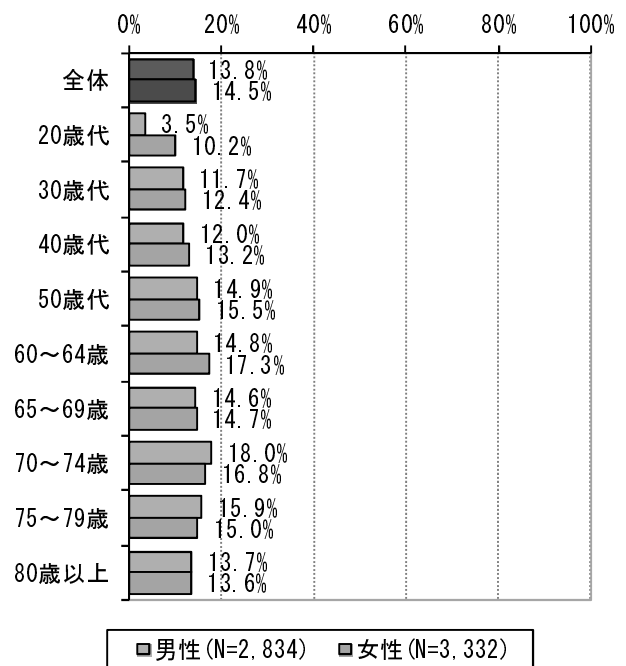
(1) 医療機関への受診状況

- 現在、「医科」に通院している人は、男性が48.2%、女性が46.5%で、年齢が高いほど多い傾向にあり、男女とも60歳以上では半数を超えている。昨年度調査に比べて男女とも増加している。【図表4-1】
- 現在「歯科」に通院している人は、男性が13.8%、女性が14.5%で、20歳代の男性を除き男女とも「医科」通院者のような性・年齢間での顕著な差はみられない。過去2回の調査を通じてみると、男女ともほぼ横ばいで推移している。【図表4-2】

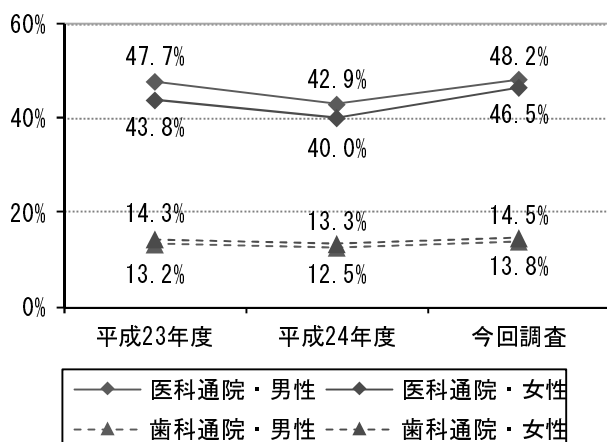
【図表4-1】 現在「医科」に通院している人の割合



【図表4-2】 現在「歯科」に通院している人の割合



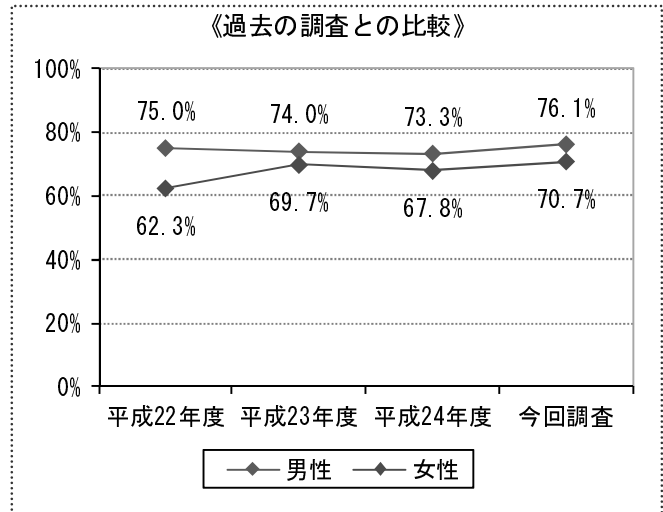
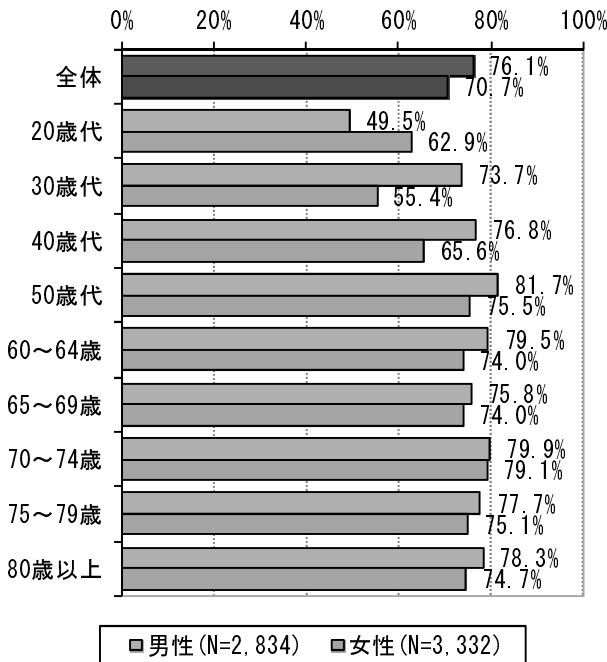
《過去の調査との比較》



(2) 内科的な健康診断の受診状況

- 過去1年間に内科的な健康診断を「受診した」人（受診率）は、男性が76.1%、女性が70.7%で男性が高く、20歳代の男性以外では半数を超えており、50歳代までは男女とも年齢が高いほど高い傾向にある。過去3回の調査との比較では、男性は低下傾向からやや上昇へ転じ、女性はやや上昇傾向にある。【図表4-3】
- 内科的な健康診断の受診者のうち、専門家から結果説明や生活習慣指導を受けた人は、男性が65.8%、女性が62.3%で、60歳代までは男女とも年齢が高いほど多い傾向にある。昨年度調査に比べて男女とも大きな変化はない。【図表4-4】

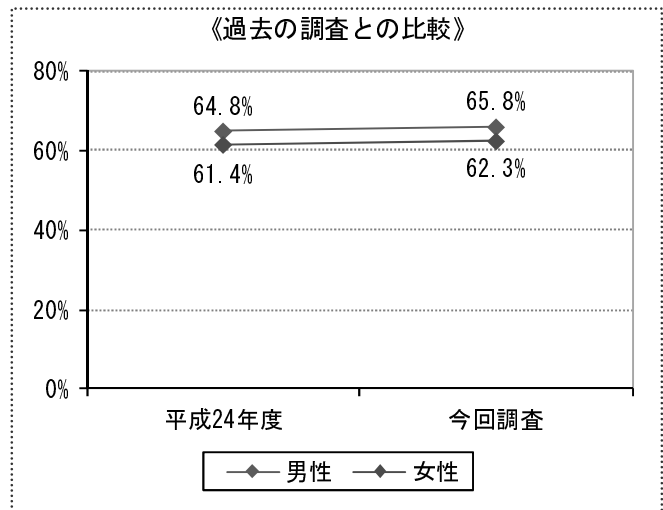
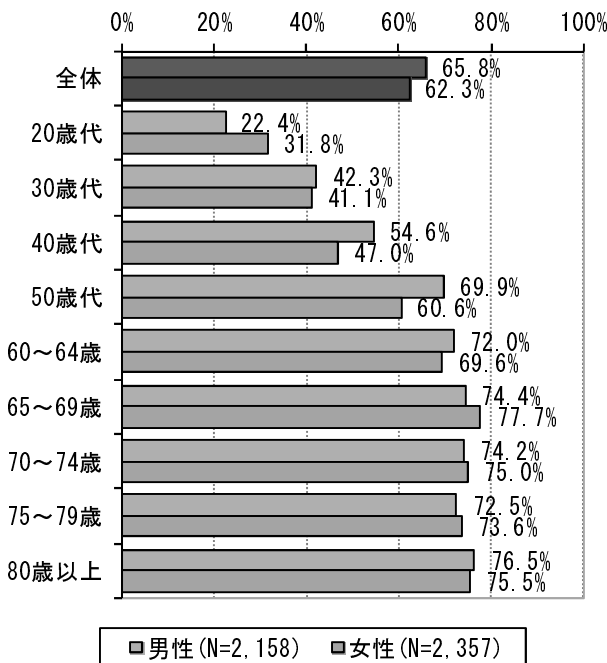
【図表4-3】 過去1年間に内科的な健康診断を受診した人の割合



《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

- 過去1年間に内科的健康診断を受けた人の割合
- …20歳以上全体：73.3% <目標値：77.4%>

【図表4-4】 内科的な健康診断を受診し、専門家から結果説明や生活習慣指導を受けた人の割合

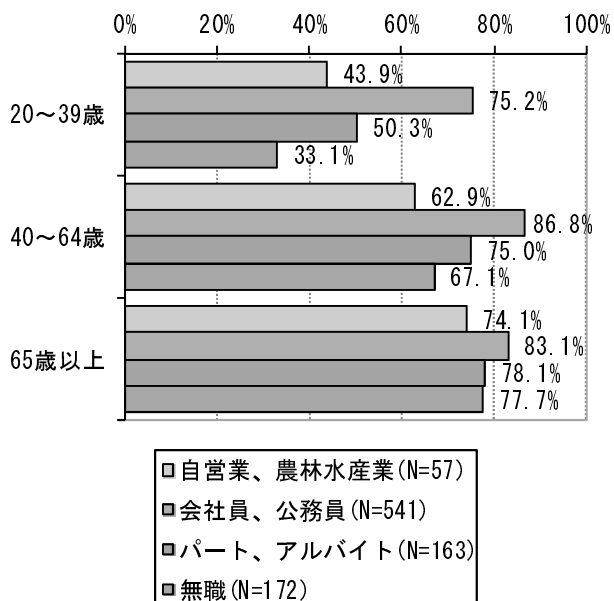


《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

- 健診後指導実施者の割合
- …20歳以上全体：64.1% <目標値：69.1%>

○ 年齢と職業からみた内科的な健康診断の受診率は、年齢に関係なく「会社員、公務員」が最も高く、逆に、20～39歳では「無職」が最も低く、次に「自営業、農林水産業」が低い。【図表4-5】

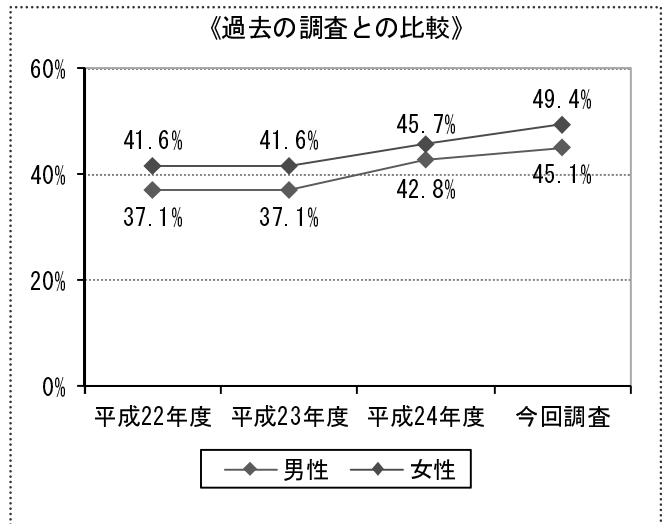
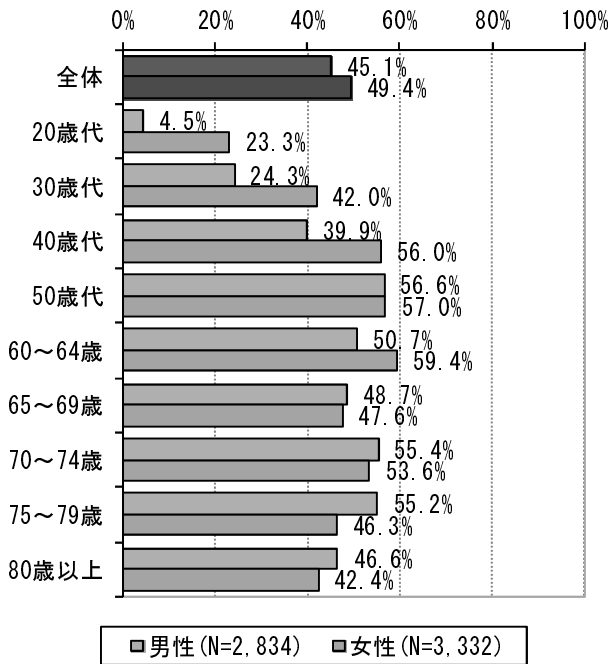
【図表4-5】 年齢と職業からみた内科的な健康診断の受診率



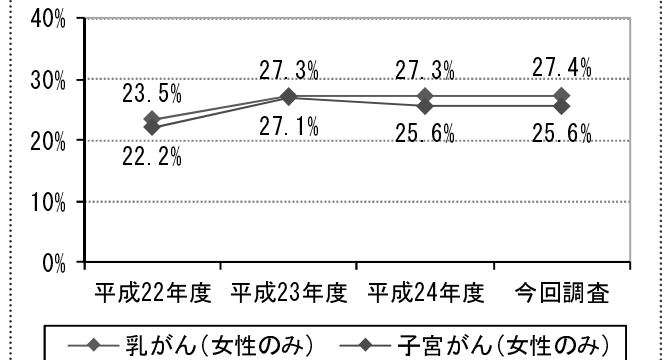
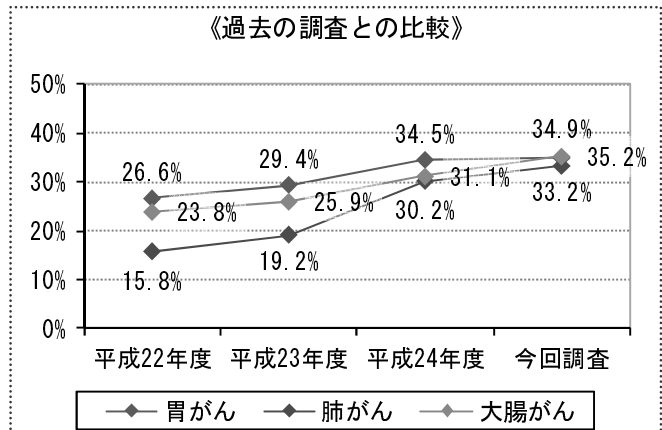
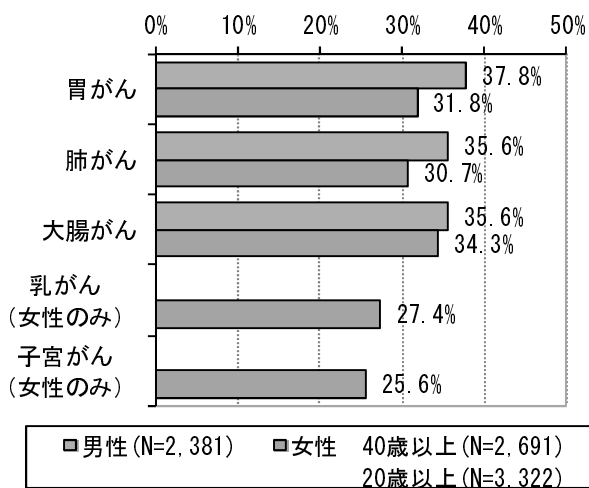
(3) がん検診の受診状況

- 過去1年間にがん検診を「受診した」人(受診率)は、男性が45.1%、女性が49.4%で女性が高く、64歳以下では女性の受診率が男性に比べて高い。過去3回の調査との比較では、男女とも受診率は上昇している。【図表4-6】
- がん検診受診率は、男性は「胃がん」、女性は「大腸がん」が最も多く、「胃がん」「肺がん」「大腸がん」はいずれも男性の受診率が女性に比べて高い。過去の調査に比べて「胃がん」「肺がん」「大腸がん」の受診率はいずれも年々上昇傾向にあるが、「乳がん」と「子宮がん」は平成23年度調査以降大きな変化はない。【図表4-7】

【図表4-6】 過去1年間にがん検診を受診した人の割合



【図表4-7】 性別にみたがん検診の種類別の受診率

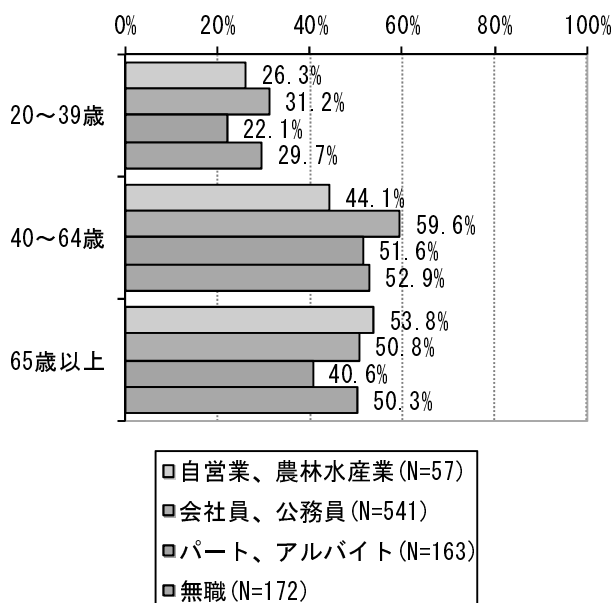


※集計母数は、子宮がんは20歳以上、それ以外は40歳以上とし、年齢の無回答・不明は含まない。
※乳がんと子宮がんは女性のみ。

※集計母数は、子宮がんは20歳以上、それ以外は40歳以上とし、年齢の無回答・不明は含まない。
※乳がんと子宮がんは女性のみ。

○ 年齢と職業からみたがん検診の受診率は、20～64歳では「会社員、公務員」が最も高い。【図表4-8】

【図表4-8】 年齢と職業からみたがん検診の受診率



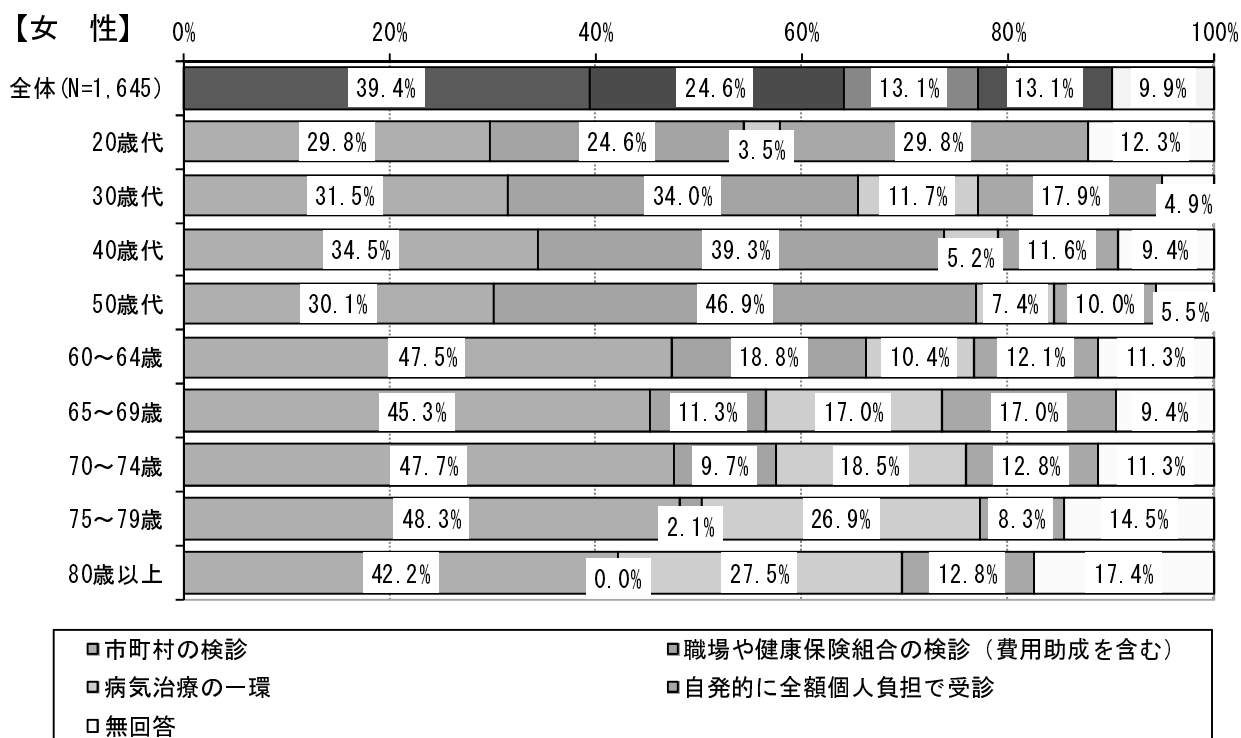
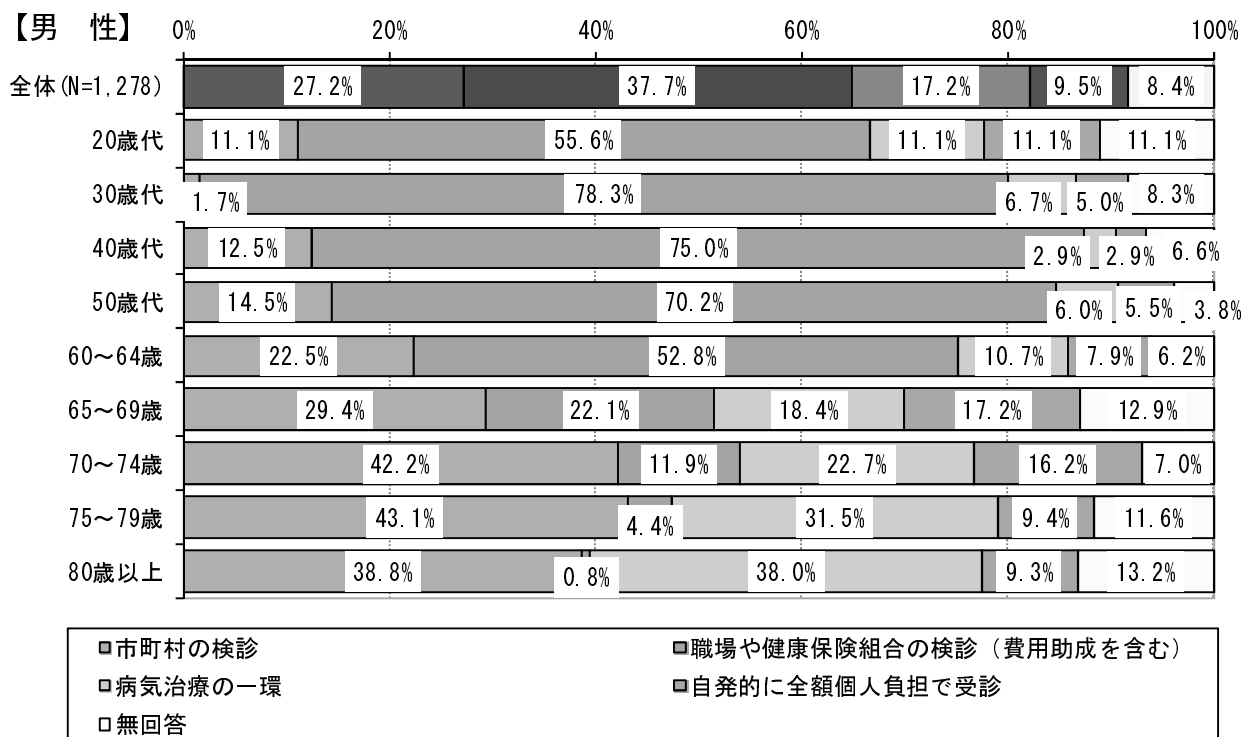
《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

●がん検診の受診率

- ・胃がん…40～69歳全体：35.8%〈目標値：50.0%〉
- ・肺がん…40～69歳全体：34.3%〈目標値：50.0%〉
- ・大腸がん…40～69歳全体：36.0%〈目標値：50.0%〉
- ・乳がん…40～69歳女性：34.5%〈目標値：50.0%〉
- ・子宮がん…20～69歳女性：31.3%〈目標値：50.0%〉

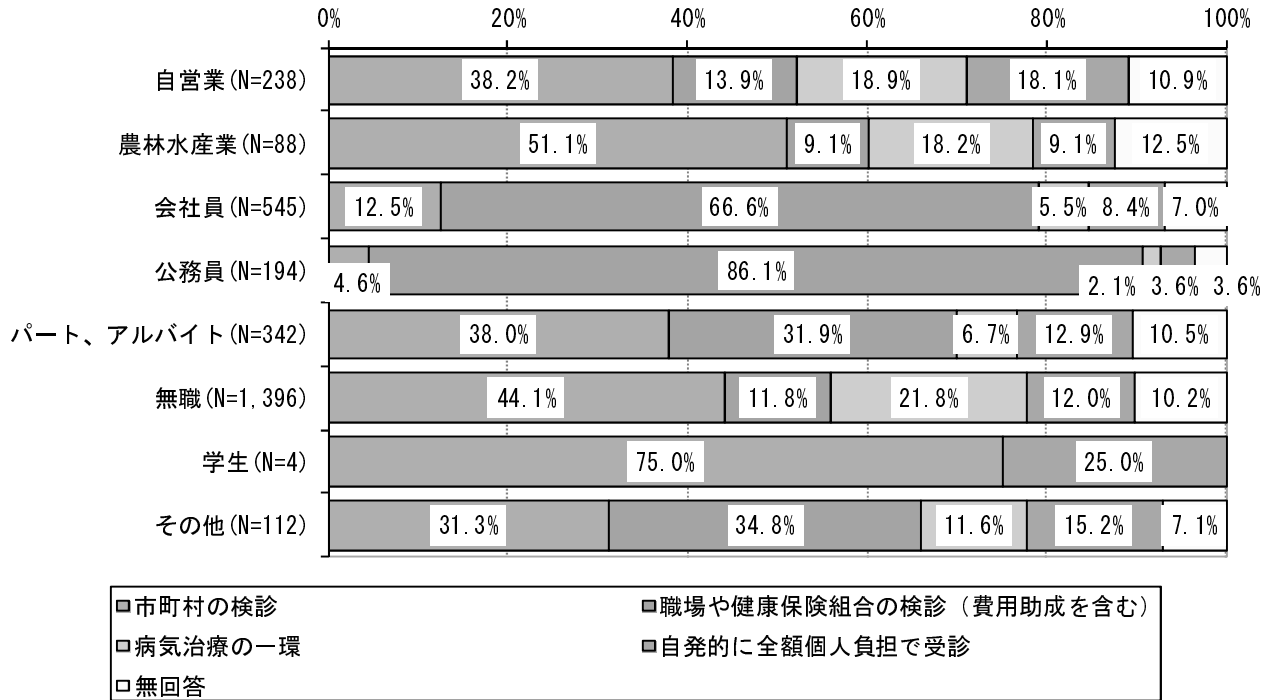
○ 受診したがん検診の実施主体は、男性では「職場や健康保険組合の検診（費用助成を含む）」が最も多く、「市町村の検診」や「病気治療の一環」が続いている。女性では、「市町村の検診」「職場や健康保険組合の検診（費用助成を含む）」「病気に治療の一環」「自発的に全額個人負担」の順となっている。【図表4-9】

【図表4-9】 受診したがん検診の実施主体



- 職業からみた受診したがん検診の実施主体は、「会社員」と「公務員」は「職場や健康保険組合の検診（費用助成を含む）」が多く、「自営業」「農林水産業」「パート、アルバイト」「無職」「学生」では「市町村の検診」が最も多い。【図表4-10】
- がん検診を受診しなかった理由は、男女とも「健康なので必要ないと思うから」「時間的な余裕がないから」「面倒だから」「費用がかかるから」「病気で医師にかかっているから」が上位にあげられている。20歳代と30歳代では、男女とも「健康診断・検診があることを知らなかったから」や「受診方法（場所・時間など）がわからなかったから」が他の年齢に比べてやや多い。【図表4-11】

【図表4-10】 職業からみた受診したがん検診の実施主体



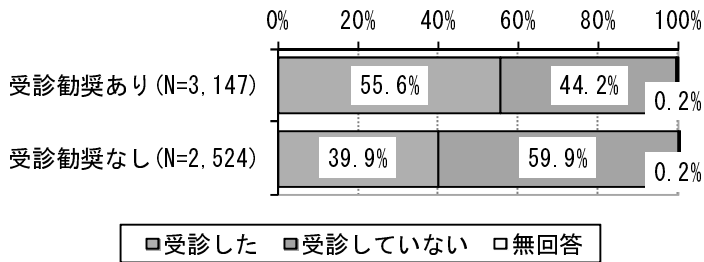
【図表4-11】 がん検診を受診しなかった理由（複数回答）

性別	健康診断・検診があることを知らなかったから	受診方法（場所・時間など）がわからなかったから	病気で医師にかかっているから	健康なので必要ないと思うから	結果を信用していないから	時間的な余裕がないから	面倒だから	費用がかかるから	結果を知るのが怖いから	職場で受けられないから	その他
全体	9.1%	10.4%	18.6%	22.3%	1.4%	22.3%	20.2%	19.1%	6.7%	8.0%	4.5%
20歳代	16.8%	17.8%	0.0%	33.5%	1.1%	30.8%	27.0%	27.0%	2.7%	15.1%	7.6%
30歳代	23.9%	24.5%	4.9%	21.7%	1.6%	32.6%	22.8%	31.0%	4.3%	19.0%	4.9%
40歳代	10.0%	8.5%	4.5%	13.5%	0.5%	42.0%	20.5%	25.0%	8.5%	12.5%	4.0%
50歳代	10.9%	11.4%	9.7%	14.9%	1.7%	34.9%	24.6%	23.4%	8.0%	9.7%	2.3%
60～64歳	4.2%	8.4%	18.7%	16.9%	1.2%	27.7%	23.5%	16.3%	11.4%	5.4%	3.0%
65～69歳	3.6%	6.6%	24.1%	25.3%	1.2%	8.4%	21.1%	19.3%	8.4%	1.2%	5.4%
70～74歳	5.0%	3.5%	37.6%	27.7%	3.5%	4.3%	16.3%	9.2%	6.4%	1.4%	3.5%
75～79歳	0.0%	3.7%	44.8%	28.4%	0.0%	1.5%	9.7%	3.0%	4.5%	0.0%	6.0%
80歳以上	0.8%	3.1%	44.5%	21.1%	2.3%	0.8%	9.4%	6.3%	3.9%	0.0%	3.1%
全体	4.4%	6.0%	16.5%	19.1%	1.6%	25.7%	19.0%	17.2%	12.0%	4.8%	9.2%
20歳代	13.4%	14.0%	1.1%	23.7%	0.5%	38.2%	28.0%	28.0%	7.0%	14.5%	11.3%
30歳代	10.8%	14.4%	3.6%	9.9%	0.0%	39.6%	18.0%	32.9%	7.7%	8.6%	14.9%
40歳代	2.9%	6.2%	6.7%	10.0%	1.4%	45.5%	21.1%	23.4%	14.4%	6.2%	11.5%
50歳代	2.6%	4.3%	10.0%	18.6%	2.2%	37.7%	25.1%	18.6%	14.3%	6.9%	8.2%
60～64歳	0.6%	1.9%	16.8%	25.5%	3.7%	19.9%	24.8%	13.7%	16.8%	0.6%	6.8%
65～69歳	1.2%	3.6%	19.5%	29.6%	1.2%	13.0%	14.8%	9.5%	20.7%	0.0%	9.5%
70～74歳	0.6%	0.6%	24.8%	23.6%	2.5%	3.8%	13.4%	8.3%	15.9%	0.0%	7.0%
75～79歳	2.7%	3.4%	40.1%	17.0%	2.0%	6.8%	8.8%	4.8%	5.4%	0.0%	6.1%
80歳以上	1.5%	1.5%	46.2%	18.9%	1.5%	3.0%	10.6%	2.3%	5.3%	0.0%	3.8%

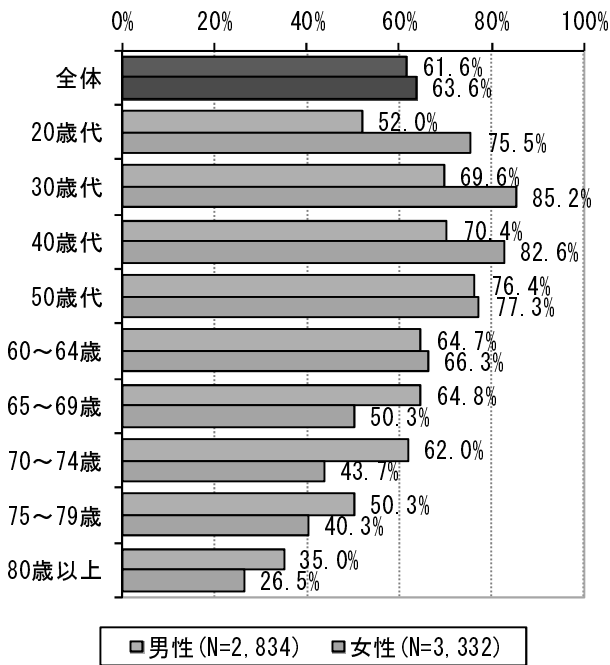
※網かけは、各年齢層の上位3項目を示している。

- がん検診の受診勧奨の有無からみたがん検診の受診者は、受診勧奨があった人がなかった人に比べて多く、半数を超えている。【図表4-12】
- がん検診を「受診したい」人は、男性が61.6%、女性が63.6%であった。【図表4-13】

【図表4-12】 がん検診の受診勧奨の有無からみたがん検診の受診状況



【図表4-13】 がん検診を「受診したい」人の割合



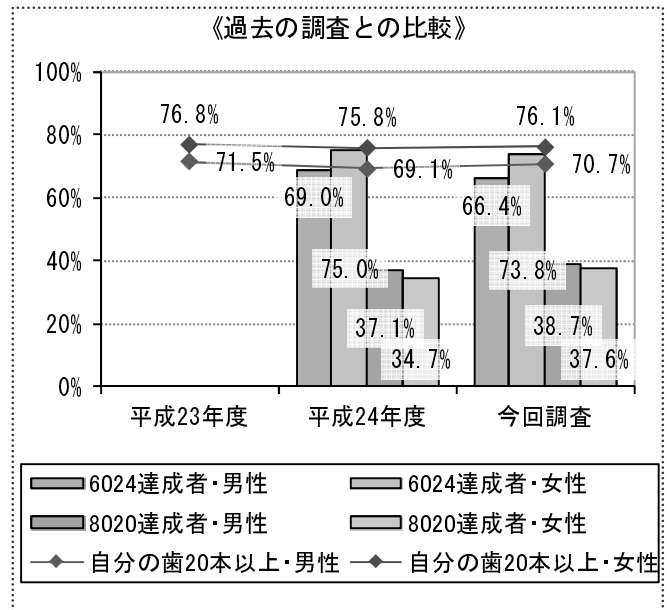
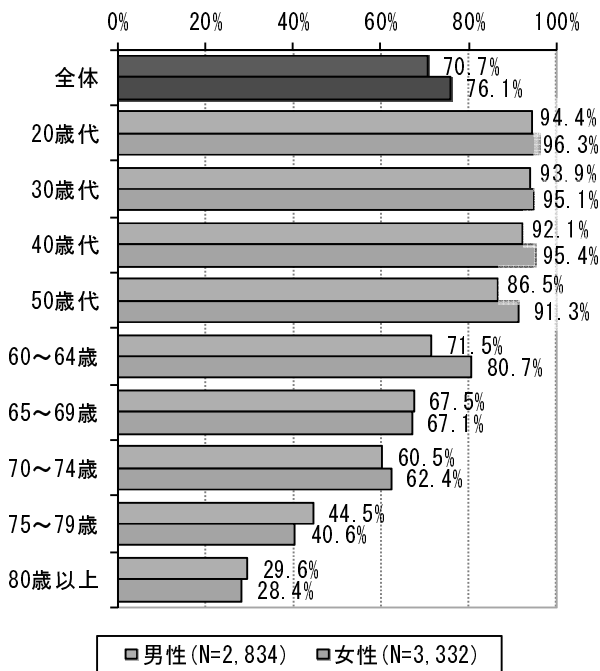
5 歯と口腔の健康

(1) 歯と口腔の状態

- 自分の歯が20本以上ある人は、男性が70.7%、女性が76.1%で女性が多く、男女とも20歳代を最多として年齢が高いほど少ない傾向にある。過去2回の調査との比較では、男女とも大きな変化はない。【図表5-1】
- 「6024達成者」は、県全体が70.3%、男性が66.4%、女性が73.8%で、昨年度調査に比べて男女ともわずかに減少している。
- 「8020達成者」は、県全体が38.2%、男性が38.7%、女性が37.6%で、昨年度調査に比べて男女ともわずかに増加している。

※「自分の歯」には、治療してかぶせた歯やさし歯は含むが、入れ歯は含まない。

【図表5-1】自分の歯が20本以上ある人の割合



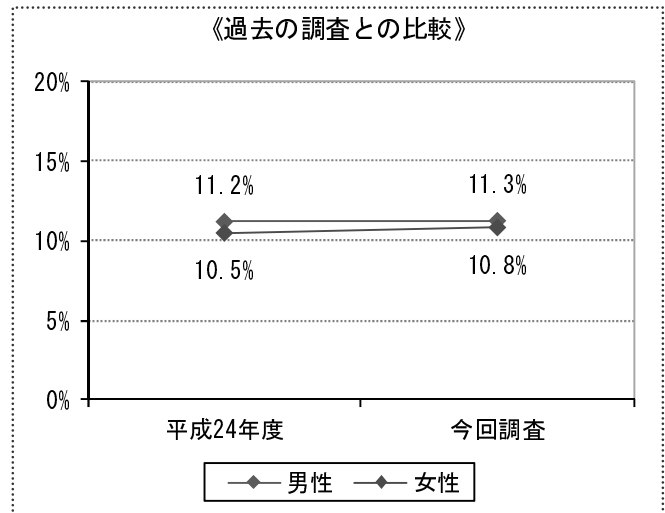
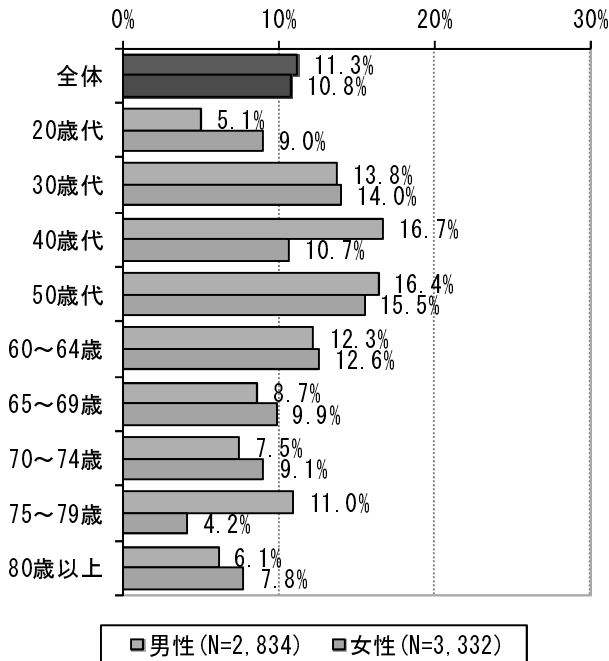
《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

- 60歳で24本以上の自分の歯がある人の割合…全体：70.3%〈目標値：75.0%〉
- 80歳で20本以上の自分の歯がある人の割合…全体：38.2%〈目標値：55.0%〉

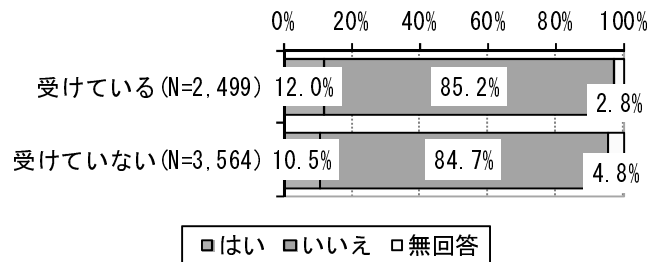
※本調査は、「6024達成者」は55～64歳全体、「8020達成者」は75～84歳全体の値

- 歯ぐきの腫れのある人は、男性が11.3%、女性が10.8%で、男性は40歳代、女性は50歳代で最も多い。昨年度調査に比べて大きな変化はない。【図表5-2】
- 定期的な歯科検診の受診状況からみた歯ぐきの腫れの状況は、歯科検診の受診状況による大差はない。【図表5-3】
- 歯をみがいたときに出血がある人は、男性が21.7%、女性が16.9%で男性が多く、いずれの年齢でも男性が女性に比べて多い。昨年度調査に比べて大きな変化はない。【図表5-4】

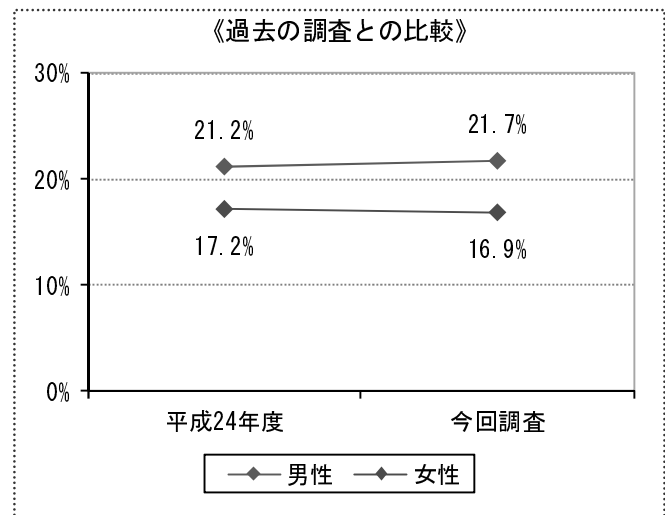
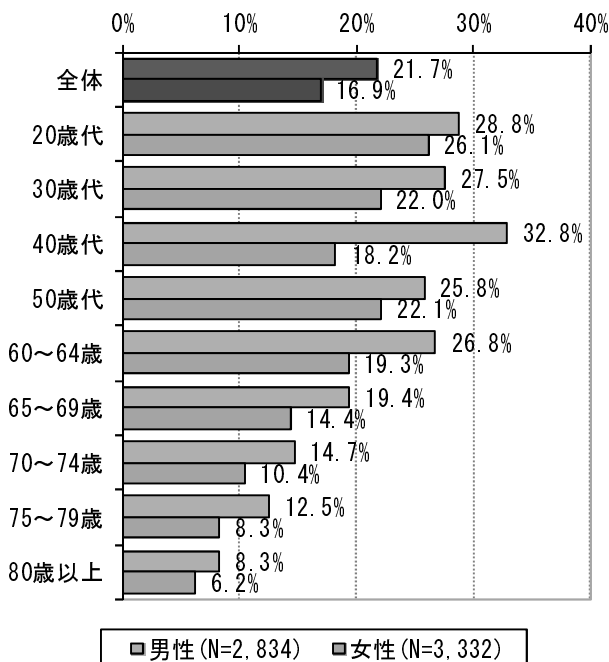
【図表5-2】 歯ぐきの腫れがある人の割合



【図表5-3】 定期的な歯科検診の受診状況からみた歯ぐきの腫れの状況



【図表5-4】 歯をみがいたときに出血する人の割合



【なら健康長寿基本計画 目標値との比較】

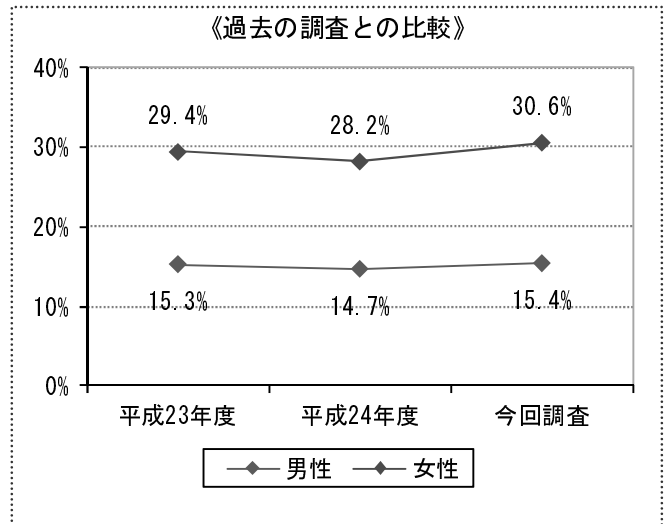
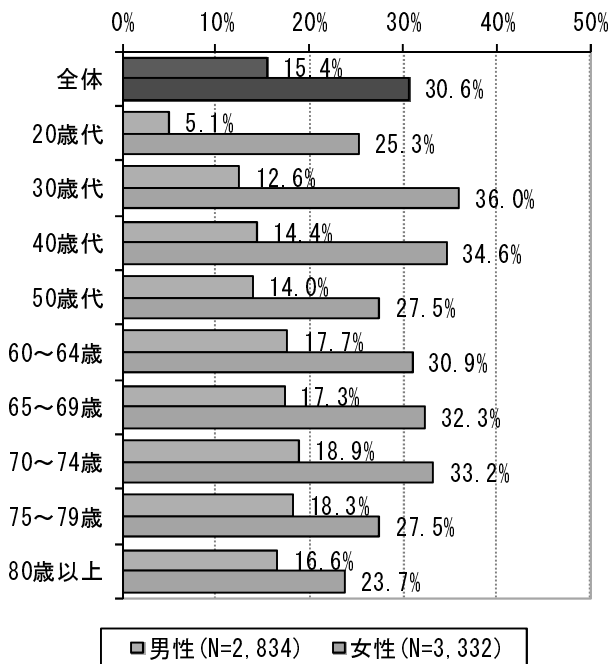
- 20歳代で歯肉に炎症所見がある人の割合
…30.2% <目標値 : 24.4%

※本調査は、20歳代で歯ぐきに腫れがある人又は歯みがき時に出血がある人の合計

(2) 歯と口腔の健康づくり

- 1日に3回以上歯みがきする人は、男性が15.4%、女性が30.6%で女性が多く、いずれの年齢でも男性は2割に満たず、女性に比べて少ない。過去2回の調査を通じてみると、男性は横ばい、女性はわずかに増加の傾向にある。【図表5-5】
- 定期的な歯の検診を「受けている」人（受診率）は、男性が35.2%、女性が44.3%で女性が高く、男女とも若年層ほど低い傾向にあり、20歳代の男性が19.7%で最も低い。過去3回の調査との比較では、男性は増加傾向、女性は横ばいから増加傾向にある。【図表5-6】

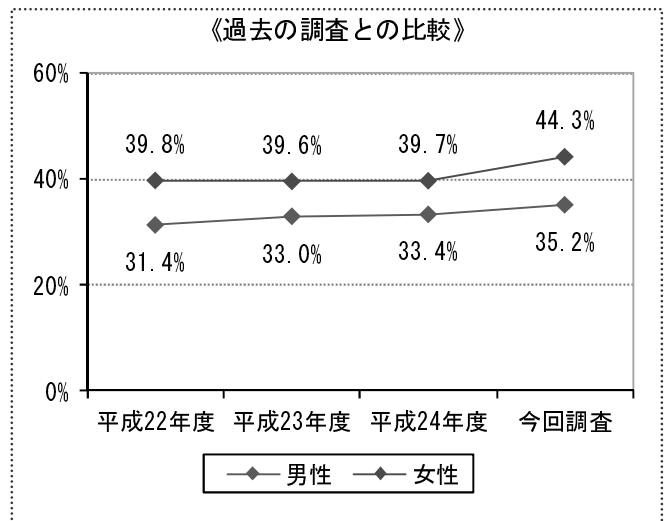
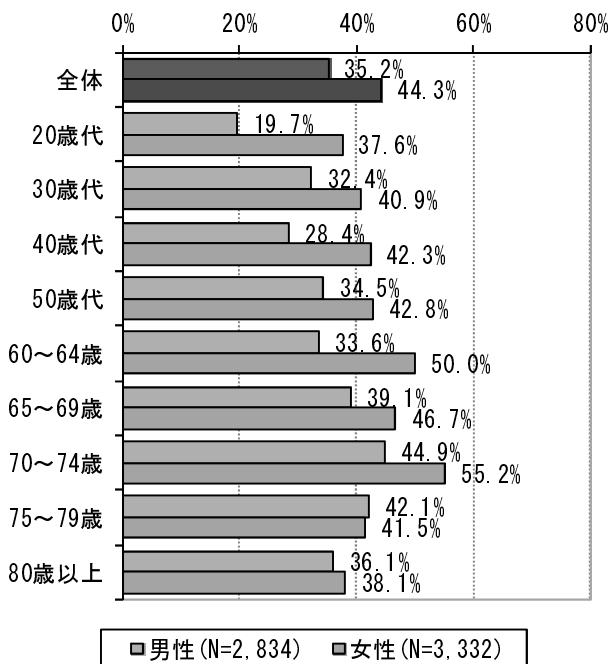
【図表5-5】 1日に3回以上歯みがきする人の割合



《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

- 1日2回以上歯みがきを行い、毎年歯科医師によるチェックを受けている人の割合
 …65歳以上全体：34.9% <目標値：36.3%>

【図表5-6】 定期的に（1年に1回以上）歯科検診を受診している人の割合

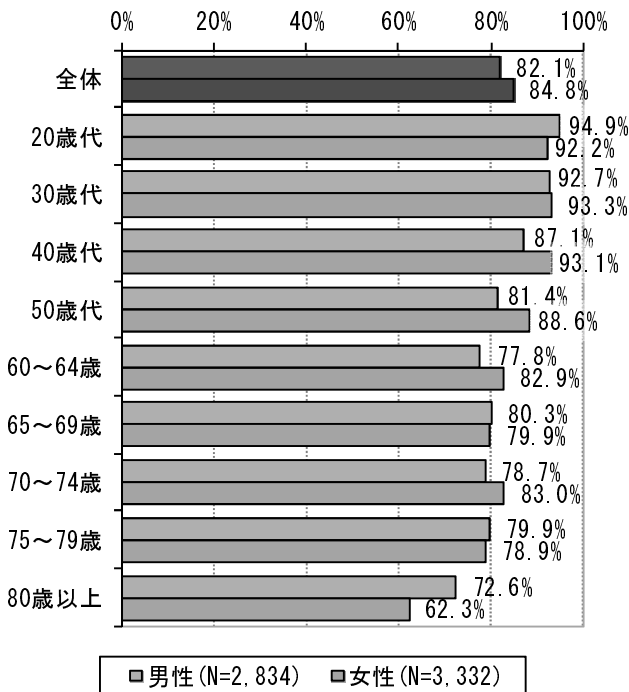


《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

- 歯科医師による定期的なチェック（1年に1回）を受けている人の割合
 …20歳以上男性：35.2% <目標値：50.0%>
 …20歳以上女性：44.3% <目標値：50.0%>

○ 何でも噛んで食べることができる人は、男性が82.1%、女性が84.8%で、男女とも年齢が高いほど少ない傾向にあるが、最も少ない80歳以上でも男女とも6割を超えている。【図表5-7】

【図表5-7】何でも噛んで食べることができる人の割合



《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

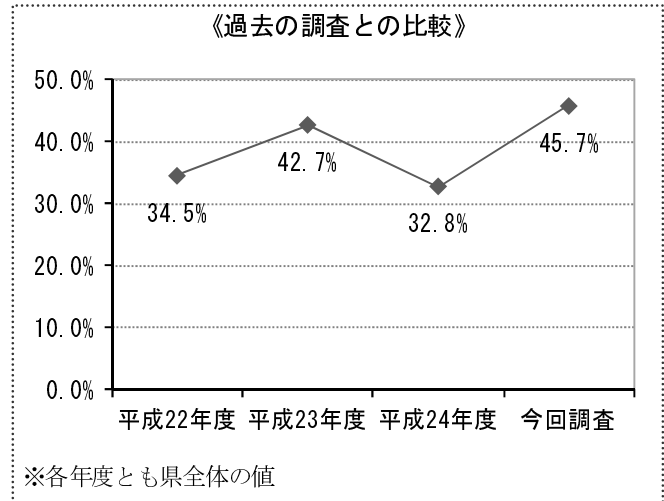
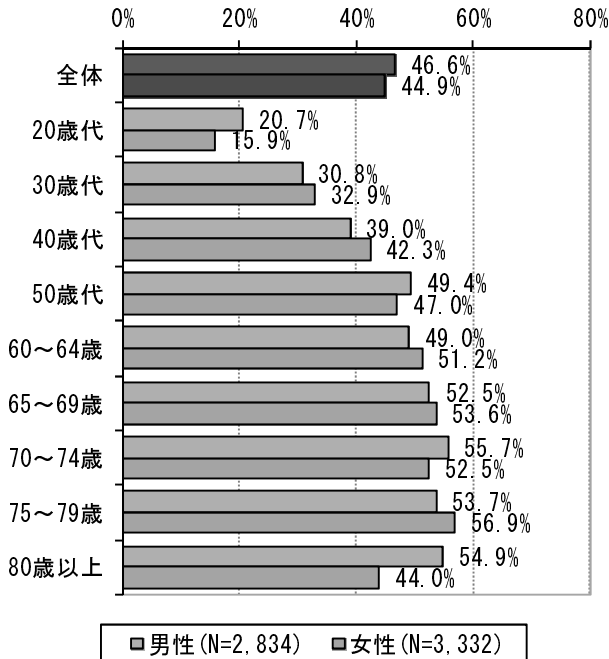
● 60歳代で咀嚼が良好な人の割合
 ...80.3% < 目標値 : 91.6% >

6 地域との関わりについて（社会資本・ソーシャルキャピタル）

（1）社会参加の状況

○ 地域や組織での活動に「参加している」人は、男性が46.6%、女性が44.9%で、男女とも20歳代で最も少なく、年齢が高いほど多い傾向がみられる。【図表6-1】

【図表6-1】 地域や組織での活動に「参加している」人の割合

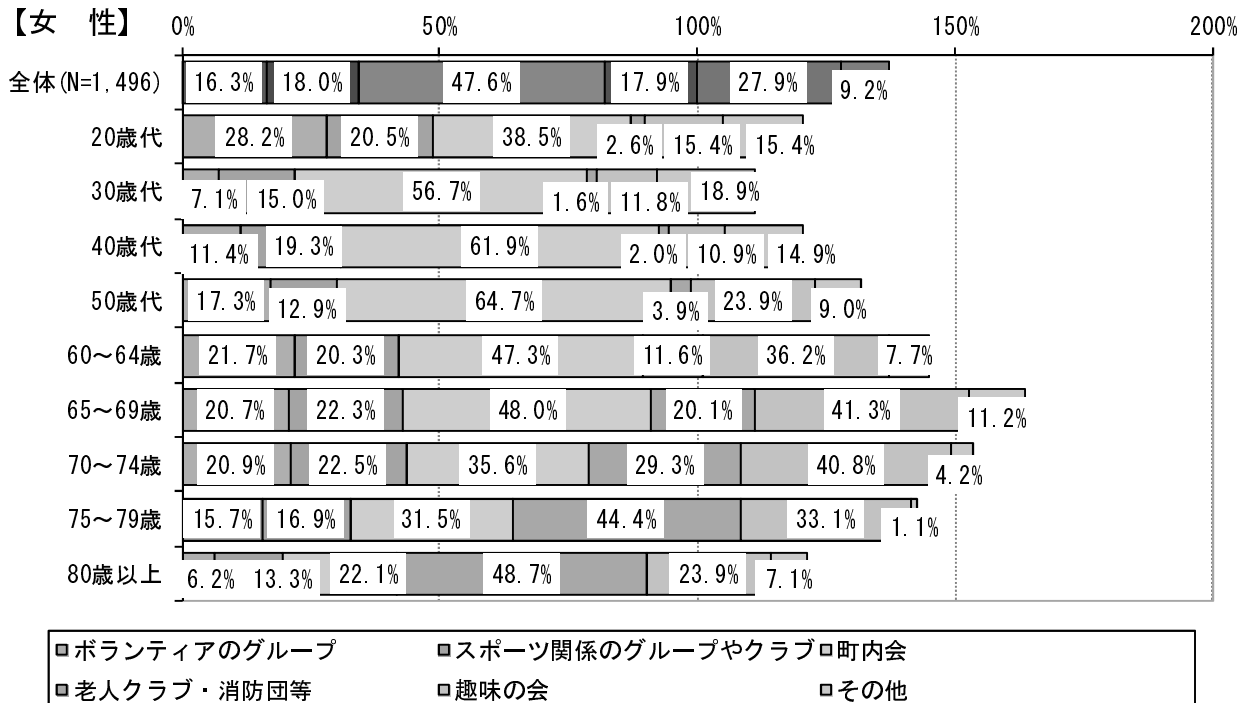
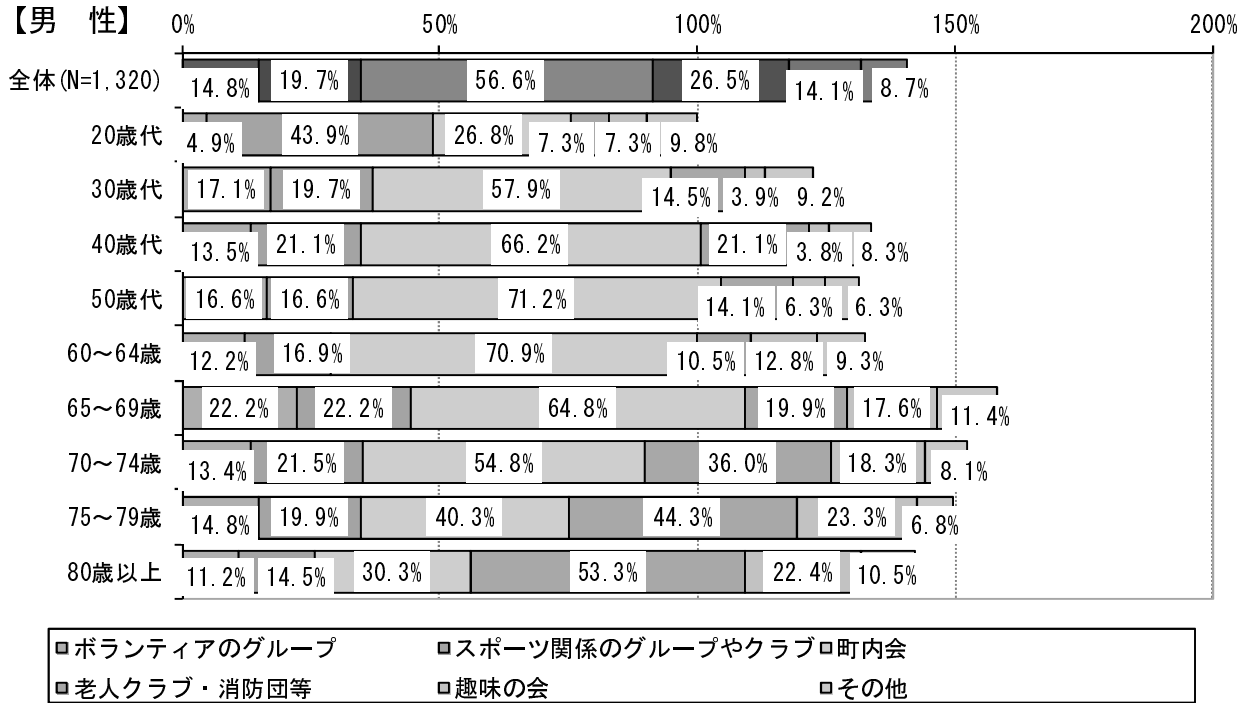


《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

● 地域活動参加率…全体：45.7%〈目標値：36.1%〉

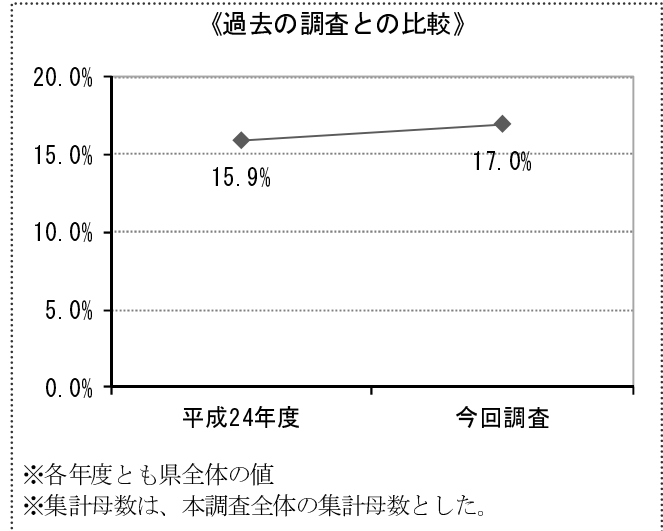
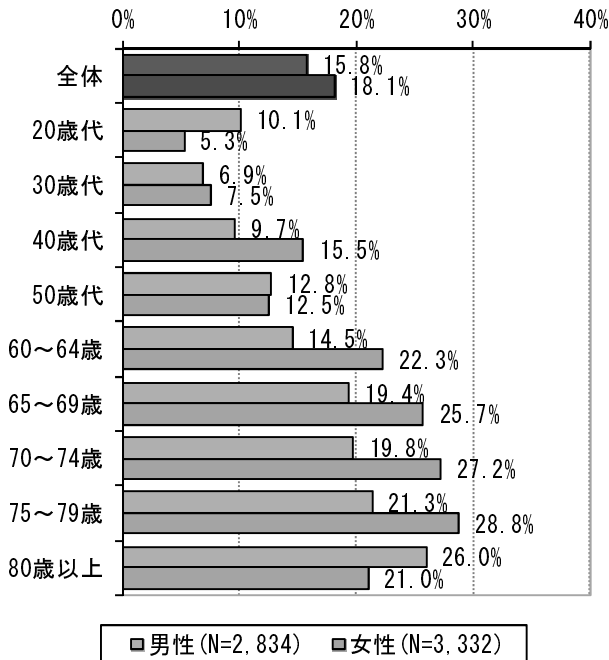
- 参加している組織や会の活動内容は、男性の20歳代では「スポーツ関係のグループやクラブ」、30～74歳では「町内会」、75歳以上では「老人クラブ・消防団等」がそれぞれ最も多い。【図表6-2】
- 女性の74歳以下では「町内会」、75歳以上では「老人クラブ・消防団等」がそれぞれ最も多い。【図表6-2】

【図表6-2】参加している組織や会の活動内容（複数回答）



- 会や組織での活動に健康づくりを目的としたものが含まれているのは、男性が15.8%、女性が18.1%で、全体では昨年度調査に比べて増加している。【図表6-3】
- 会や組織での活動で役員を務めている人は、男性が44.6%、女性が27.6%で男性が多い。20歳代を除き男性が女性に比べて多く、男女とも65～69歳が最も多い。【図表6-4】

【図表6-3】 会や組織での活動に健康づくりを目的としたものが含まれる割合

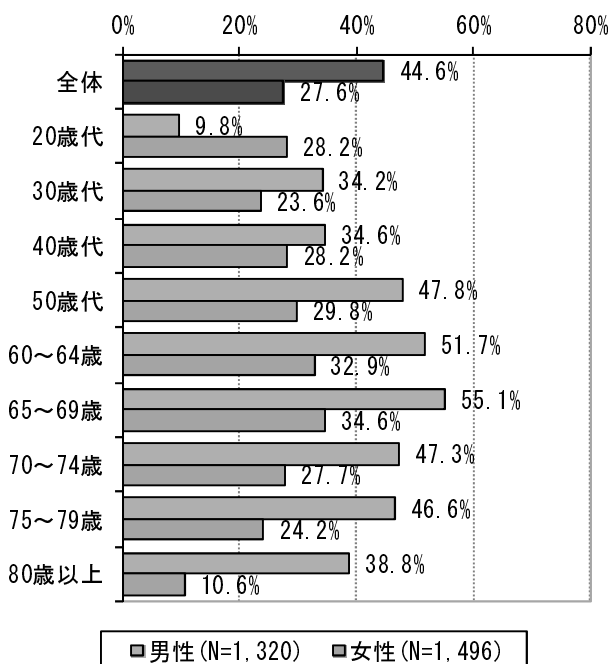


※集計母数は、本調査全体の集計母数とした。

《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

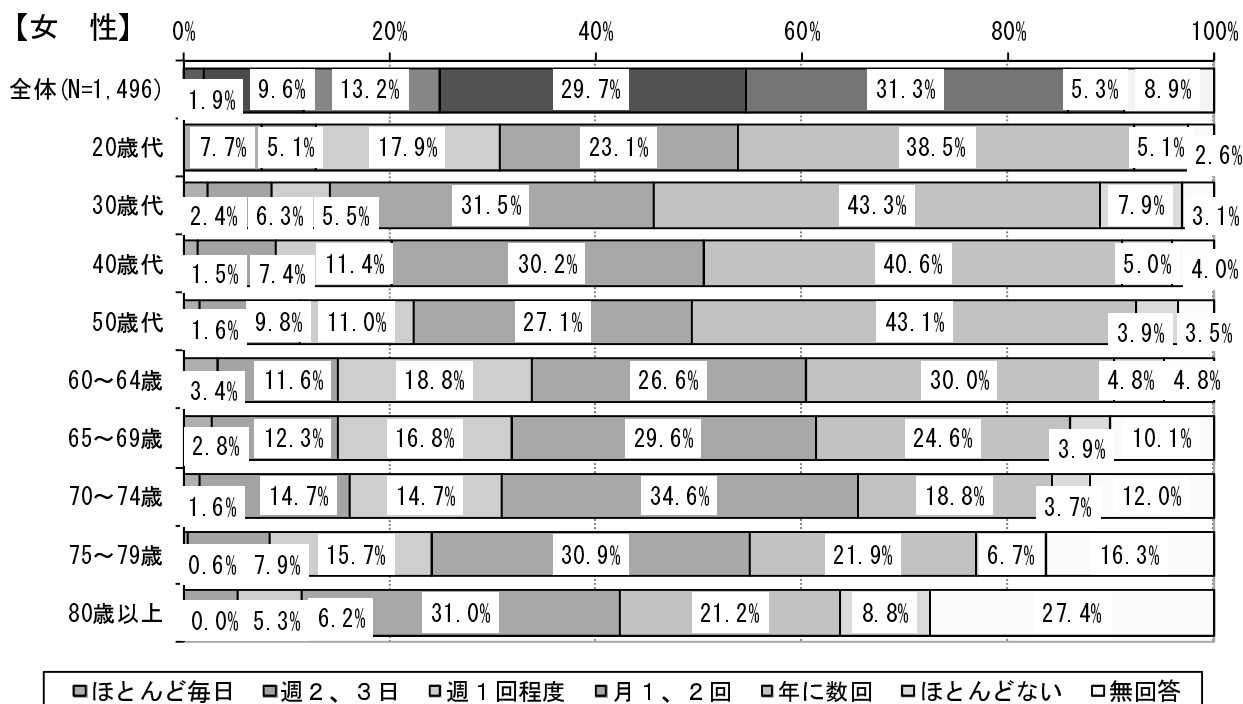
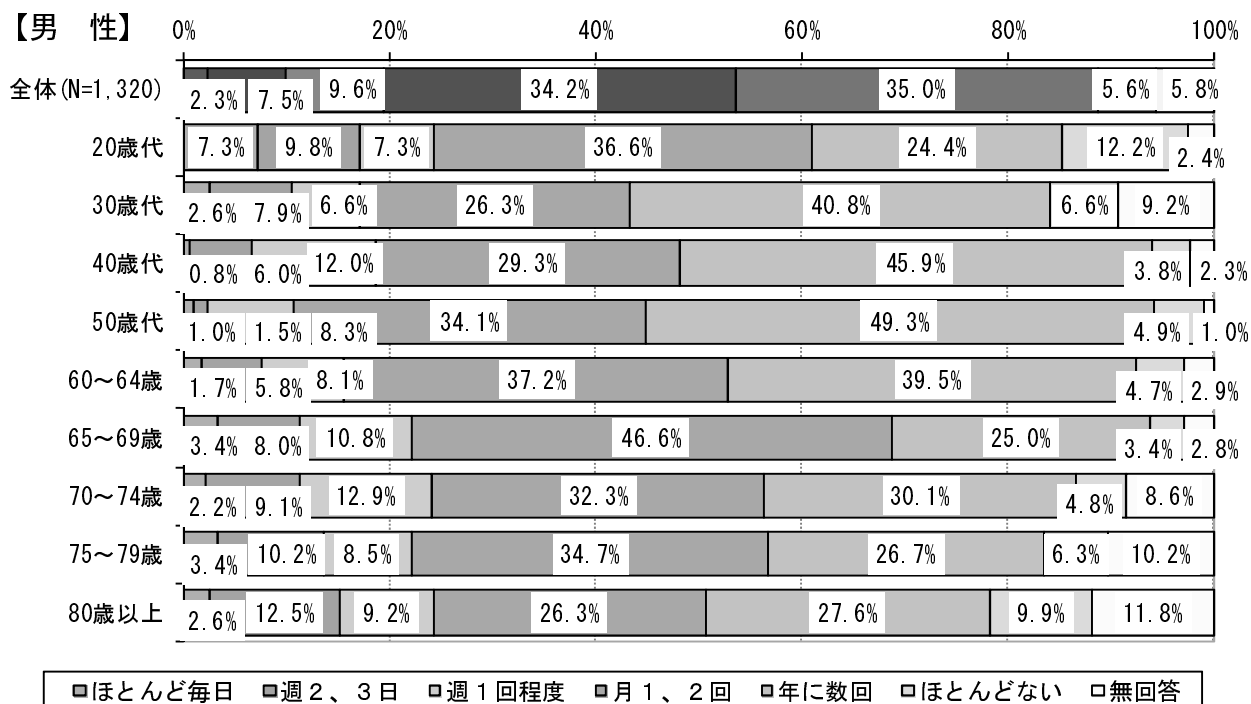
●健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている人の割合…全体：17.0%〈目標値：17.5%〉

【図表6-4】 会や組織での活動で役員を務めている人の割合



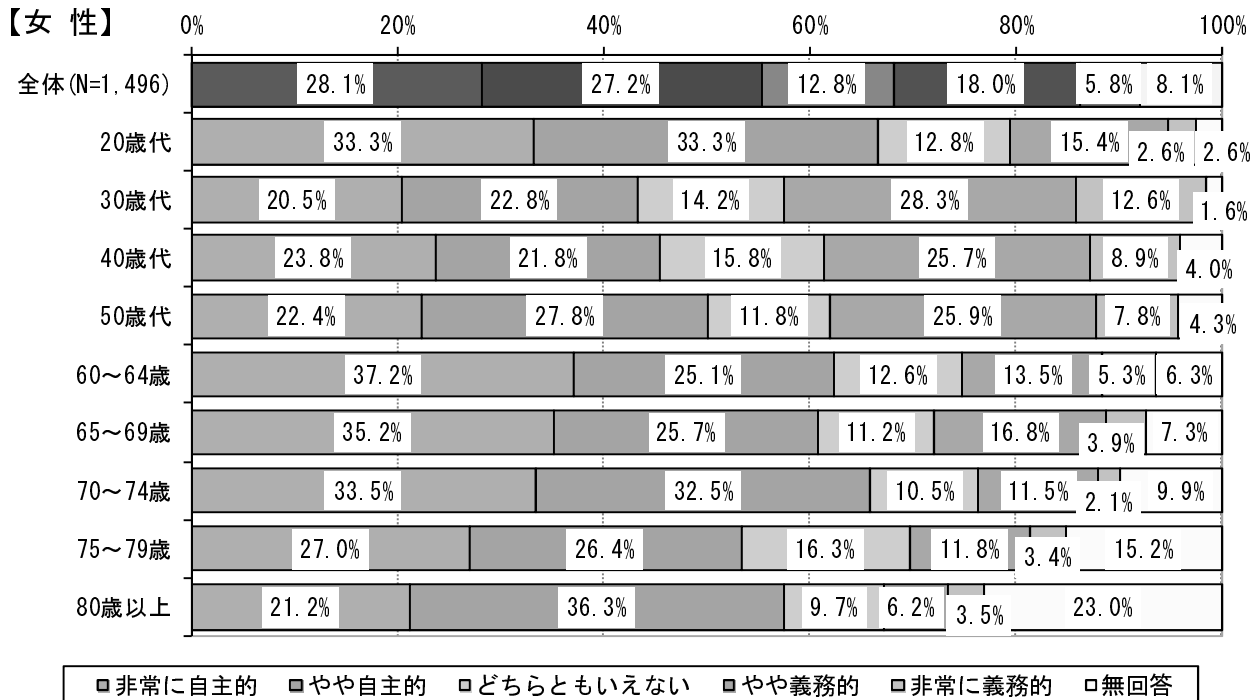
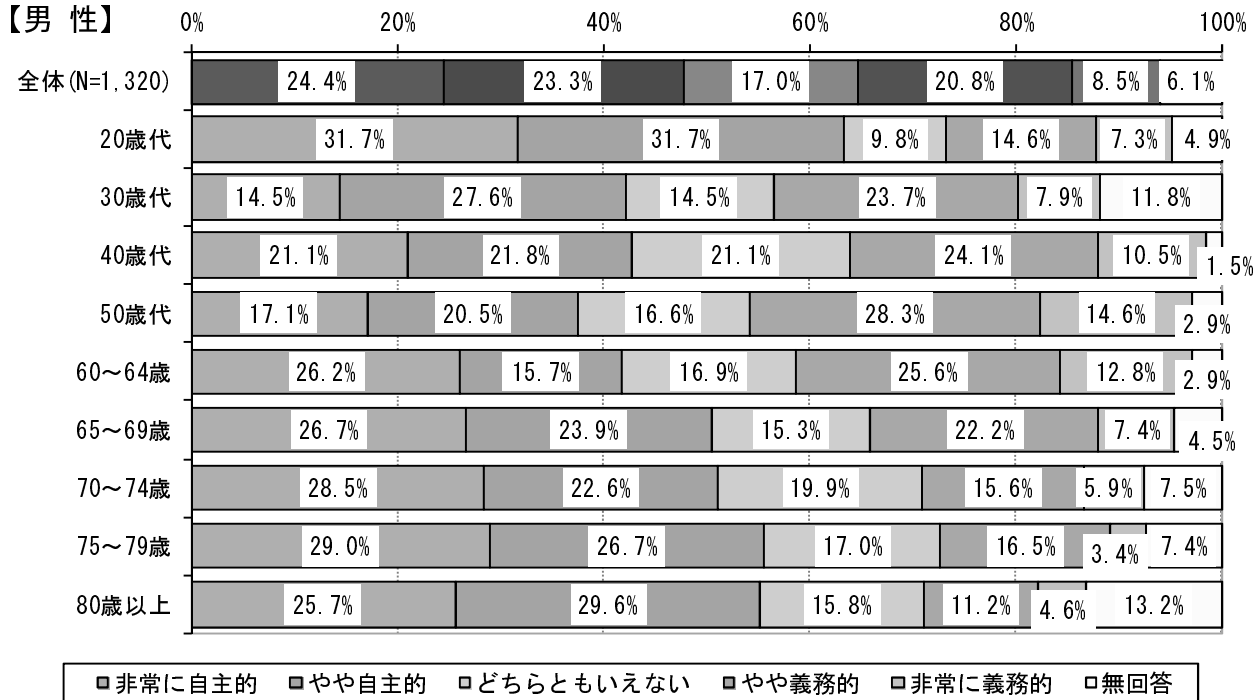
○ 会や組織での活動への出席頻度は、男女とも全体では「年に数回」が最も多く、次いで「月1、2回」が多い。【図表6-5】

【図表6-5】会や組織での活動への出席頻度



- 会や組織での活動への参加姿勢は、男女ともに全体では「非常に自主的」が最も多く、次いで「やや自主的」が多く、これらを合計した「自主的な参加」は、男性が47.7%、女性が55.3%で女性が多い。逆に、「非常に義務的」と「やや義務的」を合計した「義務的な参加」は、男性が29.3%、女性が23.8%で男性が多い。【図表6-6】
- 「自主的な参加」は、男性の30～64歳、女性の30～40歳代では半数に満たず、これらの性・年齢では「義務的な参加」が多い。【図表6-6】

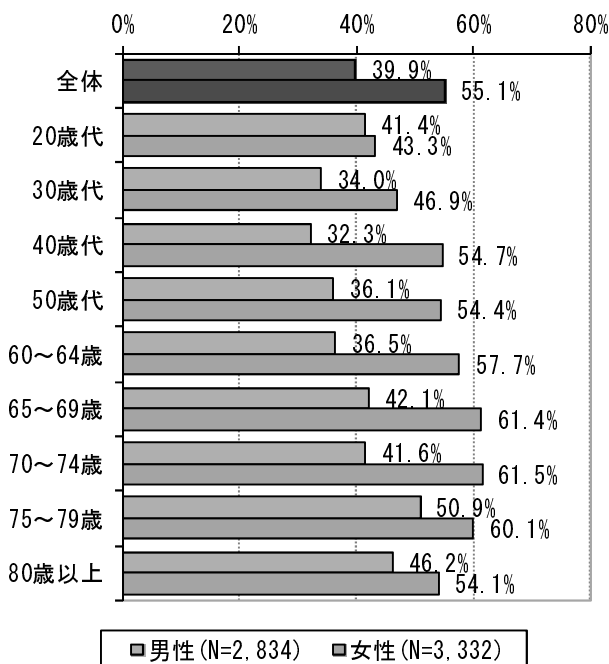
【図表6-6】 会や組織での活動への参加姿勢



(2) つきあい・交流、信頼の状況

- 近所で信頼して相談できる人が「いる」人は、男性が39.9%、女性が55.1%で女性が多く、いずれの年齢でも女性が男性に比べて多い。20歳代では男女間での大差はないが、30～74歳では男女間で10ポイント以上の差がある。【図表6-7】
- 地域でお裾分けなどを気軽にしあう関係がある人^(※)は、男性が55.4%、女性が64.6%で女性が多い。【図表6-8】
- 保健医療圏別にみた地域でお裾分けなどを気軽にしあう関係がある人は、南和保健医療圏が79.6%で最も多く、以下、東和保健医療圏が66.7%、中和保健医療圏が59.5%、西和保健医療圏が54.7%、奈良保健医療圏が49.2%となっている。【図表6-9】

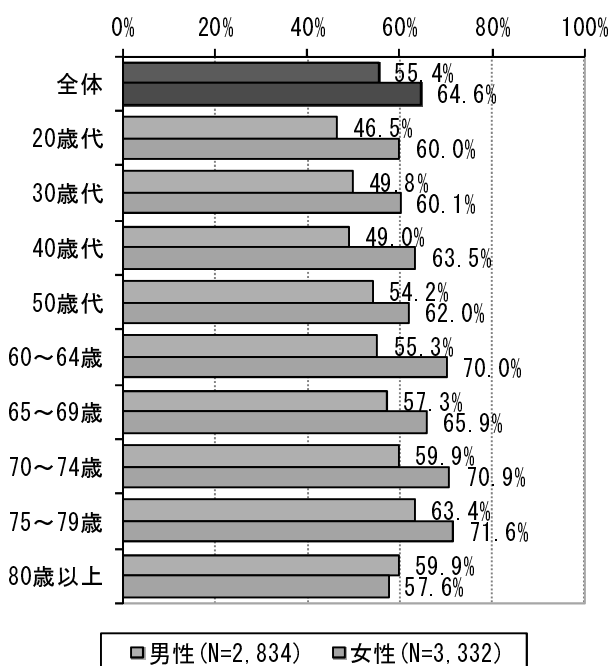
【図表6-7】 近所で信頼して相談できる人が「いる」人の割合



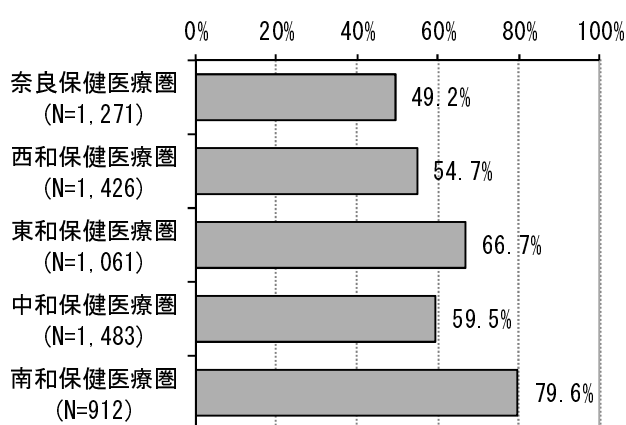
《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

- 居住地域でお互いに助け合っていると思う人の割合
- …全体：48.1% < 目標値：65.0%

【図表6-8】 地域でお裾分けなどを気軽にしあう関係がある人の割合



【図表6-9】 保健医療圏別にみた地域でお裾分けなどを気軽にしあう関係がある人の割合



(※) 地域でお裾分けなどをしあう関係がある：「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」の合計